

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 01	世界の子どもの平和像 2001年8月6日 中区基町5番(旧広島市民球場南)	核兵器のない世界のために この像はヒロシマの子どもたちの 愛と平和のメッセージです 2001年8月6日建立	世界の子どもの平和像を広島につくる会	高校生が中心となって街頭募金などで資金を集め、「核兵器と戦争のない21世紀を」という決意を込めた平和像を建立した。像のデザインは、子どもが両手を広げ、その奥で大人の男女が手と手を固く取り合っている姿を表したものの。
平和記念 公園周辺 02 (39)	中国・四国土木出張所職員殉職碑 1954年8月6日 中区大手町一丁目10番(原爆ドーム北西)	原爆のいけにえとなりし人ひとは なごみゆく世のいしずゑにして 阿部一郎(歌碑) 元内務省中国・四国土木出張所職員52名は国民義勇隊員として作業中昭和20年8月6日の原爆並びに戦災により平和の礎となりこの地に眠る 昭和29年8月6日 建設省中国・四国地方建設局職員一同建之(歌碑背面)	建設省中国・四国地方建設局職員一同	元内務省中国・四国土木出張所は県産業奨励館(現在の原爆ドーム)に事務所があった。同所では、建物疎開作業をしていた職員を含め、52人が犠牲になった。歌碑の横には名録碑があり、犠牲者の名前が刻まれている。
平和記念 公園周辺 03 (40)	広島県地方木材統制株式会社慰霊碑 1967年8月6日 中区大手町一丁目10番(原爆ドーム北東)	此のドームは第2次世界大戦時吾国の木材統制機関であった広島県地方木材株式会社の本社として職員260名の本拠であったが昭和20年8月6日午前8時15分至近上空に原爆投下され不幸にも役職員100余名がドーム内外において被爆殉職した ここに原爆ドーム永久保存の決定をみて当時の社長田中好一氏の発起により生存の旧役職員相集いその霊の冥福を祈るとともに世界永久平和を祈願して之を建碑する 併せて木材統制機関の日本木材株式会社広島支店及び広島船舶木材株式会社の殉職者を合祀する 昭和42年8月6日 広島県地方木材株式会社 旧役職員有志(背面)	広島県地方木材株式会社旧役職員有志	当時、広島県地方木材株式会社、日本木材株式会社広島支店、広島船舶木材株式会社の各統制会社は、県産業奨励館(現在の原爆ドーム)に事務所があり、役職員百余名が犠牲になった。原爆ドームが永久保存されることを受けて、当時の関係者が碑を建立した。
平和記念 公園周辺 04 (41)	原民喜詩碑(佐藤春夫の詩碑の記) 1951年11月、広島城跡に建立。 1967年、現在地に修復移設 中区大手町一丁目10番(原爆ドーム南東)	碑銘 原民喜 遠き日の石に刻み 砂に影おち 崩れ墜つ 天地のまなか 一輪の花の幻(正面) 原民喜詩碑の記 原民喜は人から清純沈鬱に流俗と遇い難い詩人であった。1951年3月13日夜、東京都西郊の鉄路に枕して濁世を去った。蓋しその生の孤独と敗戦国の塵労とは彼の如き霊の能く忍ぶところではなかった。遺書17通、先ず年来の友情を喜び、さてさりげなく永別を告げんと記し、うち2通の文尾に書き添へた短詩「碑銘」は思いを最後の瞬間に馳せて亡妻への追慕と故郷破壊の日を記した力作「夏の花」に寄せる矜持と又啼泣とを「一輪の花の幻」の1句に秘めて46年の短生涯を自ら慰め弔ふもの。辞は簡に沈痛の情は深い。遺友等ために相謀り地を故郷に相し銘記せしめて之を永く天地の間に留めた。1951年7月13日夜 遺友中の老人佐藤春夫記す(背面)	原民喜委員会(日本ペンクラブ、広島文学協会)	作家の原民喜氏は、幟町の生家で被爆したが、その前年に最愛の妻を失っていた。原爆は孤独な原の心に大きな絶望感を与えた。1951年3月、原氏は自らの命を絶った。
平和記念 公園周辺 05 (42)	動員学徒慰霊塔 1967年5月 中区大手町一丁目10番(原爆ドーム南東)	第2次世界大戦中増産協力等いわゆる勤労奉仕に動員された学徒は、全国にわたり三百数十万。あたら青春の光輝と、学究の本分を犠牲にしつつ挺身した者のうち、戦禍にたおれた者一万有余人。その六千余人は原爆死を遂げた。この塔は明眸青雲を望み、将来空高く羽ばたこうとした夢も空しく、祖国に殉じたそれら学徒の霊を慰めようと有志同胞の手によってうち建てた。	広島県動員学徒等犠牲者の会	第2次世界大戦中、増産協力、建物疎開作業などの勤労奉仕に動員されて亡くなった学徒(原爆の犠牲者を含む。)約1万余人の霊を慰めるため建立された。塔の高さは12メートル、有田焼陶板張り仕上げで、平和の女神像と8羽の鳩を配した末広がり5層の塔で、中心柱に慰霊の灯明がついている。
平和記念 公園周辺 06 (16)	原爆の子の像 1958年5月5日 中区中島町1番(平和記念公園レストハウス北西)	これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための(正面) 原爆で亡くなった兄妹の霊をなぐさめ世界に平和を呼びかけるために広島市小・中・高校の子供が結集し全国の友達の支援のもとにこれをつくる(背面)	広島平和をきずく児童・生徒の会	白血病で亡くなった佐々木禎子さんを始め、原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊し、平和を守るための記念の像を造ろうと、禎子さんの同級生らが募金を呼びかけて建立した。像の高さは9メートルで、その頂上に金色の折り鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託している。側面左右の二体は少年と少女と明るい希望を象徴している。
平和記念 公園周辺 07	平和の石塚 1972年8月2日 中区中島町1番(原爆の子の像北)	永年にわたり友情に結ばれているフォート・ウィリアムとダットレイの青年から善意と調和と世界平和を願うシンボルとして、この石を広島に贈る。この石は特にイギリス最高峰ベン・ネビス山から切り出した(訳)	広島青年会議所	ベン・ネビス山は1945年、第2次世界大戦が終わった日に、イギリスの青年が「平和記念塚」を造ったのがきっかけで平和を誓う山となっていて、広島青年会議所が「ヒロシマの悲劇を世界平和のいしずえに」という銘板を贈った。その返礼として、フォート・ウィリアムとダットレイ両市から国際平和の願いが刻まれた二つの石造りの銘板が寄贈された。
平和記念 公園周辺 08 (7)	平和の時計塔 1967年10月28日 中区中島町1番(相生橋南詰)	核原子力の出現により、人類はいま生か死か、破壊か、繁栄かの岐路に立っている。ひろい世界を同じ心で一つに結ぶ、全世界のライオンズ会員が平和実現のために果たす役割りは大きい。原爆ドームの永久保存に呼応し、人類が初の原爆の洗れを受けた時刻、8時15分に、毎日全世界に向けこの時計塔のチャイムが「ノーモアヒロシマ」を強く訴え、人類の恒久平和実現の一日も早からんことを祈り、この時計塔を建設し、市に贈るものである。昭和42年10月28日 チャーター伝達10周年を記念し 広島鯉城ライオンズクラブ	広島鯉城ライオンズクラブ	広島鯉城ライオンズクラブが結成10周年を記念し建設。世界人類を象徴した直径2メートルの球体が、平和都市ヒロシマの市民の深い祈りの手と、苦難を超え、無限に伸びていく平和への希望を表した高さ20メートルの鉄塔3本に支えられている。
平和記念 公園周辺 09	遭難横死者慰霊供養塔 1957年9月 中区中島町1番(原爆供養塔北)	為原爆遭難横死者慰霊	県下真言宗徒	仏教では、人間の間違った行いは心の迷いから生じると考え、その迷いは真実を知らない無知から起こると説く。無知が縁となって戦争も起こるので、真実を知って無知をなくせば平和が訪れる。この塔に梵字で刻まれた言葉には、そのような自覚を人々に促し、平和を求める願いが込められている。
平和記念 公園周辺 10 (9)	原爆供養塔 1955年8月 中区中島町1番(相生橋南)	世界最初の原子爆弾(昭和20年8月6日午前8時15分)による犠牲者数万柱の遺骨を納める。この地一帯が爆心地であったため、期せずして、ここに痛ましい無数の遺骸が運ばれ処理せられたものである。昭和21年1月広島戦災供養会が創立せられ、同5月仮供養塔、同7月仮納骨堂・礼拝堂が市民の喜捨により建立せられ、昭和30年7月満10周年を期して、広島市が中心となって、納骨堂を改築せられ、各処に散在していた遺骨を此処に納めた。毎年8月6日には全県市挙げて追悼の誠をこめた供養慰霊祭が行われるほか、毎月6日例祭が行われている。供養行事は広島県宗教聯盟が奉仕するほか、各宗教派別による特別供養も厳修せられている。 広島戦災供養会(説明板)	広島戦災供養会	1946年、無数の死体を焼いたこの地に仮の供養塔が建てられ、1955年、現在の姿となった。土盛りの内部には、原爆犠牲者約7万人の遺骨が納められている。名前不詳が大多数であるが、名前の分かる遺骨もあり、現在でも、遺族が分かり次第手渡されている。毎年8月6日を中心に、広島戦災供養会を始め、広島県宗教連盟及び各宗派による慰霊行事が行われている。

原爆関係の慰霊碑等の概要(中区内)

令和7年7月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 11 (8)	平和の鐘 1964年9月20日 中区中島町1番(原爆供養塔北東)	平和の鐘 この梵鐘、鐘堂は広島市の悲願に立って、すべての核兵器と戦争のない、まことの平和共存の世界を達成することをめざし、その精神文化運動のシンボルとしてつくりました。この梵鐘、鐘堂は平和を願う万人の心と浄財を結晶させてつくりました。この鐘の音を、広島から、世界のすみずみまでひびきわたらせ、全人類の1人1人の心にしみわたらせることを願っております。この趣旨、目的を御理解の上、平和への願いをこめておつき下さい。 昭和39年9月20日建之 広島悲願の会(説明板)	広島悲願 の会	核兵器と戦争のない、平和共存の世界を達成することをめざし、その精神文化運動のシンボルとして造られた。鐘の表面には、「世界は一つ」を象徴する国境のない世界地図が浮き彫りされている。訪れる人の手によって、自由に鐘が打ち鳴らされている。
平和記念 公園周辺 12 (10)	平和の石燈 1955年8月6日 中区中島町1番(原爆供養塔南)	閑思清和(正面) 被爆33回忌にあたりここに記す平和石燈の詞(昭和52年) 人生は起きて半畳、寝て1畳と申し畳の上で産声をあげてより畳の上で暮らし畳の上で入寂することが無上の仕合せとしております。原爆犠牲者の御霊の安らかな冥福を祈り、台石を特に畳の形とし常住畳の上で閑思清和の四季、旦座喫茶、合掌して永遠に献茶奉仕を捧げます。台石の高さは1年12カ月をもって1尺2寸とし、炉には2寸の縁をとり燈籠の高さは炉壇の寸法1尺5寸、台石との開きは8月6日を2分して4尺と3尺としました。畳の上では主客平等で差別なく、浄水池は日の丸を型どり、108の煩惱によせて直径1尺8分とし、深さは3寸、昼は万物根源の太陽の徳を、夜は水の恩を賛えて、池中に映る月影を下化衆生の相、見仏聞法への心からなる手向けとしました。 昭和30年8月6日建設 発願建設者 淡交会広島支部長 石井淡笑斎 宗寿(説明板)	茶道裏千 家淡交会 広島支部	原爆犠牲者の御霊の冥福を祈って造られた。毎年8月6日、石燈前で供茶の会が開催されている。
平和記念 公園周辺 13 (11)	韓国人原爆犠牲者慰霊碑 1970年4月10日 中区中島町1番(原爆供養塔南)	慰霊碑の由来 第2次世界大戦の終り頃 広島には約10万人の韓国人が 軍人、軍属、徴用工、動員学徒、一般市民として在住していた。 1945年8月6日原爆投下により、2万余名の韓国人が一瞬にしてその尊い人命を奪われた。 広島市民20万犠牲者の1割に及ぶ韓国人死没者は決して黙過できる数字ではない。 爆死した これら犠牲者は誰からも供養を受けることなく、その魂は永くさまよい続けていたが、1970年4月10日在日本大韓民国家居留民団広島県本部によって悲惨を強いられた同胞の霊を安らげ原爆の惨事を二度と くり返さないことを希求しつつ平和の地、広島の一隅に この碑が建立された。 望郷の念にかられつつ異国の地で爆死した霊を慰めることはもとより 今もなお理解されていない韓国人被爆者の現状に対しての関心を喚起し、一日も早く良識ある支援が実現されることを念じる。 韓国人犠牲者慰霊祭は毎年8月5日この場所で行われている。 在日韓国青年商工人連合会及び有志一同(説明板)	在日本大 韓民国居 留民団広 島県本部	碑は、亀を形どった大きな台座の上に碑柱が立ち、頂部に双竜の図柄を刻んだ冠がかぶさっている。元々、碑は、平和記念公園の外の本川橋西詰の河岸緑地にあったため、「民族差別」ではないかと声が出されていた。このため、広島市長は1998年12月、公園内への移設を許可する方針を表明した。これを受けて、韓国人原爆犠牲者慰霊碑移設委員会によって1999年5月に起工され、同年7月21日に完工式が行われた。毎年8月5日、碑の前で慰霊祭が行われている。
平和記念 公園周辺 14 (12)	被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石) 1689年 中区中島町1番(原爆供養塔南)	—	不詳	当時、この辺りは慈仙寺という大きな寺だった。爆心地から200メートルに位置し、全ての建物は壊滅し、住職など全員が犠牲になった。強烈な爆風で境内にあったたくさんの墓石も吹き飛ばされた。被爆当時の姿で残されているこの墓は、広島藩浅野家年寄の岡本宮内のもの。戦後、盛り土して公園が建設されたため、墓は周囲よりくぼんだ場所にあるが、その高さが被爆当時の地面のレベルである。
平和記念 公園周辺 15 (15)	平和の泉 1960年9月1日 中区中島町1番(原爆の子の像南西)	—	広島青年 会議所	広島青年会議所創立10周年を記念して造られた。この泉の西側の本川一帯では、建物疎開作業に動員された中学生が被爆し、「水を、水を」と言いながら死んでいった。犠牲者の霊に捧げる泉であり、訪れた人のかわきをいやし、平和の尊さを訴える泉である。
平和記念 公園周辺 16 (13)	平和乃観音像 1956年8月6日 中区中島町1番(原爆供養塔南)	平和乃観音(正面) 嗚呼中島本町の跡 昭和31年8月6日 中島本町建之 広島市長渡辺忠雄謹書(背面) 嗚呼中島本町の跡 この地は明治・大正・昭和の初期広島で最も繁華の中心であった 昭和20年8月6日原爆一閃町民全員一瞬にして悲惨なる最後を遂げたり 生き残れる有志相集って平和観音像を建立し永遠にその霊を慰む 毎年8月6日午前9時より平和観音前に於て慰霊祭を執行いたしますので多数御参詣下さい 中島平和観音会有志(横の石碑)	中島本町 会	かつて盛況であった中島本町も、爆心地から250メートルと近距離に位置していたため、原爆により焦土と化し、町民のほとんどが死亡した。戦後、町が平和記念公園となったので、生き残った町民が寄り集まって中島本町会を作り、無くなった町に対する惜別の情と犠牲者への慰霊の意を込めて像を建立した。像の手前に市民により作られた「広島市中島本町被爆復元地図」があり、横には犠牲者の名前を刻んだ名録碑がある。
平和記念 公園周辺 17 (3)	義勇隊の碑 1964年8月6日 中区中島町1番(本川河岸、国際会議場北西)	謹みて義勇隊員の霊にささぐ 我等みな忘れまじ 悲しみて余りある惨状の日を そは昭和20年8月6日午前8時15分なり 原爆この地に投下され 阿鼻叫喚の巷の中で 苦悶のはてに 吾がはらはらはいまここに眠る 軍の至上命令とはいえ174名の尊き犠牲者 当日早朝より家屋疎開の作業に従事すその名川内村義勇隊旧安佐郡川内村温井部落居住者なり 戦禍の憎しみ今ここで言うをまたず 我等遺族その若き命をささげし霊に断腸の思い果つるを知らず ここに遺族一同相ばかりて その尊き犠牲を永久に語りつたえ 今平和のきざしこの地より出するにあたり 霊よとこえに安かれと祈念しこの碑を建立す 昭和39年8月6日 安佐郡佐東町川内温井 遺族一同(横の石碑)	安佐郡佐 東町川内 温井遺族 一同	安佐郡川内村温井(現在の安佐南区川内地区)から中島新町(現在の中島町。爆心地から650メートル)に出勤した川内村国民義勇隊の先発隊は、現場で建物疎開作業中に被爆し、全滅した。また、後続隊は現場に向かう途中で被爆し、無傷で帰って来た人もいたが、後に原爆症に苦しむ人も少なくなかった。碑の背面には180人の犠牲者の名前が刻まれている。なお、この碑と同様に川内村国民義勇隊の犠牲者を慰霊する碑として、「安佐郡川内村原爆精霊供養塔」(西区)がある。さらに、義勇隊犠牲者を含めて川内村戦没者戦災死者を慰霊する碑として、「川内村戦没者戦災死者供養塔」(安佐南区)がある。毎年8月6日、碑の前で川内・温井義勇隊遺族会主催による慰霊行事が行われている。
平和記念 公園周辺 18 (4)	広島県立第二中学校慰霊碑 1961年8月6日 中区中島町1番(本川河岸、国際会議場西)	戦災並に原爆にて死没された元広島二中職員生徒352名のなつかしい名簿を此の碑の背面に記し永久の思ひ出と慰霊のよすがと致したいと思ひます 昭和36年8月6日遺族一同(碑) なぐさめの言葉しらねばただ泣かむ 汝がおもかげといさをしのびて 元県立広島二中校長 古田貞衛(横の追悼歌碑正面) 嗚呼 昭和20年8月6日学徒動員作業中戦災並に原爆により教官7名生徒343名平和の礎となる 昭和28年8月6日 広島県立第二中学校遺族一同建之(横の追悼歌碑背面)	県立二中 遺族一同	広島県立広島第二中学校(現在の広島観音高等学校)1年生は、建物疎開作業現場のこの地で被爆し、全滅した。碑の背面には、教師7人、生徒343人、事務員1人の351人の犠牲者の名前が刻まれている。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 19 (5)	広島市立商業・造船工業学校慰霊 碑 1963年8月6日 中区中島町1番(本川河岸、国際 会議場南西)	青天の霹靂とはまさにこのことであった 昭和20年8月6日午前8時15分 われらの郷土広島は ただの 1発の原子爆弾によって この世ながらの地獄を現出し 一瞬にして壊滅した われらが母校広島市商 は 当時造船工業に転換を余儀なくされていたのであるが 当日学徒動員市内建物疎開作業に出動 中の 生徒270名付添職員3名もまた 全滅の悲運に遭った われらは年少の諸君の清純熱烈な愛国 の至情に想いを致し 可憐悲痛全ういべき言葉を知らない われらここに殉難生徒職員各位の諸霊 の冥福を祈り かくの如き悲劇の再び人間の手によってくり返さしめざることを誓うとともに 併せて今 次大戦を通じて戦列に参加し奮戦苦闘武運拙くも散華して護国の鬼と化した多数の旧市商同窓生各 位の英霊をも弔うべくこの碑を建立し われらの微衷を永く後世に伝えんとするものである 昭和38年8 月6日 広島市商同窓会・造船学校遺族 広島市商業学校長 田中浩造 撰文(横の石碑)	広島市商 同窓会・造 船工業学 校遺族会	広島市立商業学校は、戦争末期に市立造船工業学校になったが、戦後、広島市立 商業高等学校として再発足した。1年生がこの付近の建物疎開作業に出動して 被爆し、全滅した。碑の背面には、市商戦没者125人に加え、原爆犠牲者として教 師7人、生徒260人の名前が刻まれている。
平和記念 公園周辺 20	慈母の像 1961年8月6日 中区河原町1番(平和大通り緑地 帯、西平和大橋西詰南)	慈母の像 平和の鳩を はなち給ふ 自得(台座正面)	高ノブ氏 (寄贈)、建 設世話人	原爆で夫と子どもを失った高ノブさんにより建立された。白い花崗岩で造られ、像の 足元に合掌する童子のあどけなさが、子を奪われた母親の悲しみを訴えるかのよう である。
平和記念 公園周辺 21 (33)	原爆犠牲国民学校教師と子どもの 碑 1971年8月6日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、国際会議場南)	太き骨は先生ならむ そのそばに 小さきあたまの骨 あつまれり 篠枝(台座背面)	原爆犠牲 国民学校 教師と子ど もの碑建設 委員会	広島県原爆被爆教師の会が中心となって建立した。台座に刻まれているのは原爆 歌人正田篠枝さんの短歌。
平和記念 公園周辺 22 (32)	平和の像「若葉」(湯川秀樹歌碑) 1966年5月9日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、国際会議場南)	まがつびよ ふたたびここに くるなかれ 平和をいのる 人のみぞ ここは 湯川秀樹	広島南ロー タリークラ ブ	広島南ロータリークラブが創立10周年を記念して建立した。台座に刻まれているの はノーベル物理学賞の湯川秀樹博士の短歌。
平和記念 公園周辺 23 (34)	友愛碑 1965年8月3日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、国際会議場南)	友愛	日本損害 保険協会 広島地方 委員会	日本損害保険協会加盟社の原爆犠牲者89人の慰霊と平和へのいしづえを祈念し て建立された。円柱の上にある四個の十字形は、人間の形を表し、「四」は全世界 を表す。四個の人の形によって平和を希求する全世界の人々の愛と良心のつなが りを表現している。なお、この碑と同様に日本損害保険協会加盟社の犠牲者を慰 霊する碑として、「全損保の碑」(中区)がある。
平和記念 公園周辺 24 (36)	旧天神町南組慰霊碑 1973年7月15日 中区中島町4番(元安川河岸、平 和大橋西詰南)	慰霊	慰霊碑建 設世話人 会	天神町南組は爆心地から近距離に位置していたため、原爆の直撃を受けて全壊・ 全焼した。かつての地に旧町ゆかりの有志が碑を建立した。
平和記念 公園周辺 25 (35)	広島市立高等女学校原爆慰霊碑 1948年8月6日 中区中島町1番(元安川河岸、平 和大橋西詰)	E=MC ² (正面) 友垣にまもられながらやすらかに ねむれみたまよこのくさ山に 昭和23年8月6日 宮川雅臣(背面) この碑は昭和20年8月6日8時15分この地附近で家屋疎開作業中原爆に遭って全員殉職した広島市立 第一高等女学校報国隊職員生徒679柱の霊を弔うため遺族会が昭和23年忌日母校校庭に建立同32 年13回忌に現地に移したものである。碑面の浮彫は河内山賢祐氏の作で国家の難に挺身した可憐 な生徒たちを「あなたは原子力(E=MC ²)の世界最初の犠牲として人類文化発展の尊い人柱となつた のです」と慰めている姿をあらわしている(横の石碑の背面)	広島市女 原爆遺族 会	この地付近で建物疎開作業中被爆し、全滅した広島市立第一高等女学校(現在の 舟入高等学校)職員生徒の霊を弔うため、遺族会が1948年、母校校庭に建立し、 1957年、現在地に移設した。E=MC ² は原子力を意味する(アインシュタインの「質 量とエネルギーの転換式」)。なお、この碑と同様に広島市立第一高等女学校職員 生徒の犠牲者を慰霊する碑として、「広島市立高等女学校職員生徒原爆追悼碑」 (東区)がある。
平和記念 公園周辺 26 (29)	マルセル・ジュノー博士記念碑 1979年9月8日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、平和大橋西詰)	1945年8月9日赤十字国際委員会の駐日主席代表として来日 広島原爆被災の惨状を聞き直ちに 占領軍総司令部へ行きヒロシマ救援を強く要請 9月8日調達した大量15屯の医薬品と共に廃墟の市 街へ入り惨禍の実情を調査 自らも被爆市民の治療にあたる 博士の尽力でもたらされた医薬品は市 内各救護所へ配布 数知れぬ被爆者を救う 博士の人道的行為に感謝し 国際赤十字のヒューマニ ズムを讃え永く記念してこれを建てる(正面、日英併記) 無数の叫びがあなたたちの助けを求めている(背面)	献碑・ジュ ノー博士記 念碑建立 世話人会	マルセル・ジュノー博士(スイス人)は、9月8日、連合国軍総司令部から手に入れた 15トンの医薬品などを持って広島に入り、被爆者の救護に人道的立場から尽力し た。その功績を顕彰するため、碑が建立された。
平和記念 公園周辺 27 (53)	ノーマン・カズンズ氏記念碑 2003年8月2日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、平和大橋西詰)	世界平和は努力しなければ達成できるものではない 目標を明確に定め責任ある行動をとることこそ 人類に課せられた責務である ノーマン・カズンズ(日英併記)	ノーマン・カ ズンズ氏記 念碑建設 委員会	ノーマン・カズンズ氏(米国人)は、広島への原爆投下のため孤児となった子どもた ちの精神養子運動や、被爆女性の米国でのケロイド治療などに尽力するとともに、 核兵器廃絶を世界に訴え続けた。2001年の米国ニューヨーク市などでの同時多発 テロをきっかけとして、カズンズ氏の顕彰碑建立の動きが起こった。これを受け、広 島県医師会などによる碑建設委員会が募金を呼びかけ、建立した。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 28 (57)	バーバラ・レイノルズ氏記念碑 2011年6月12日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、平和大橋西詰)	私もまた被爆者です 私の心は いつも ヒパクシャ ヒロシマ とともにあります バーバラ・レイノルズ 広島市特別名誉市民 ワールド・フレンドシップ・センター創立者 2011 ワールド・フレンドシップ・セン ター(日英併記)	NPO法人 ワールド・ フレンド シップ・セン ター	バーバラ・レイノルズ氏(米国人)は、1951年、原爆傷害調査委員会(ABCC、現在の放射線影響研究所)の研究員だった夫とともに広島入りし、原爆被害の惨状に衝撃を受け、反核・平和運動に取り組んだ。「私の心はいつもヒロシマとともにある」という信念の下、ヒロシマの世界化に尽力したレイノルズ氏の功績を顕彰するため、碑が建立された。
平和記念 公園周辺 29	平和の塔 1974年10月30日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、平和大橋西詰)	—	世界連邦 広島県・広 島市宣言 記念塔建 設委員会、 広島市	1954年10月30日に広島市が世界連邦都市宣言をしたのを記念して、20年後に建立された。塔は一边が4メートルの五角錐で、五つの面は五大州を表している。
平和記念 公園周辺 30 (31)	嵐の中の母子像 1960年8月5日 中区中島町1番(平和大通り緑地 帯、平和記念資料館本館南)	嵐の中の母子	広島市婦 人会連合 会	1959年に開催された第5回原水爆禁止世界大会を記念して、原水爆禁止日本協議会が広島市に贈った彫刻家本郷新氏の原型を、広島市婦人会連合会がブロンズ像に鋳造することを決め、募金して建立した。
平和記念 公園周辺 31 (30)	祈りの泉 1964年11月 中区中島町1番(平和記念資料館 本館南)	—	広島銀行	「水を、水を」と言いながら死んでいった犠牲者の霊に捧げる噴水。地上10メートル吹き上がる噴水は、夜間はカラフルな水中カラーランプに彩られる。
平和記念 公園周辺 32 (25)	全損保の碑 1965年8月6日 中区中島町1番(平和記念資料館 東館北)	なぜ あの日は あった なぜ いまもつづく 忘れまい あのにくしみを この誓いを	全日本損 害保険労 働組合	被爆20周年を記念して、日本損害保険協会加盟社の原爆犠牲者89人の慰霊と平和へのいしづえを祈念して建立された。なお、この碑と同様に日本損害保険協会加盟社の犠牲者を慰霊する碑として、「友愛碑」(中区)がある。
平和記念 公園周辺 33 (23)	峠三吉詩碑 1963年8月6日 中区中島町1番(平和記念資料館 東館北)	ちちをかえせ ははをかえせ としよをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ わたしにつながる にんげんをかえせ にんげんの にんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを へいわをかえせ 峠 三吉(正面)	平和のた めの広島 県文化会 議、峠三 吉詩碑建 設委員会	峠氏は翠町の自宅(爆心地から3キロメートル)で被爆した。焦土の中で青年運動を通じ、文学活動を行い、詩集などを出版した。碑面は自宅のあった方向に向けられている。碑の背面には、詩の英訳が刻まれている。
平和記念 公園周辺 34 (22)	材木町跡碑 1957年8月6日 中区中島町1番(平和記念資料館 東館北)	材木町跡	材木町生 存有志	材木町は爆心地から400メートルと近距離に位置していたため、原爆で一瞬に壊滅した。他の場所へ疎開などして生き残った旧町民が、公園に変わった旧町を惜しむとともに、犠牲者の冥福を祈って、かつての地に建立した。
平和記念 公園周辺 35 (20)	広島平和都市記念碑(原爆死没者 慰霊碑) 1952年8月6日 中区中島町1番(平和記念資料館 本館北)	安らかに眠って下さい 過ちは 繰返させぬから	広島市	この碑は、1945年8月6日、世界最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を、平和都市として再建することを念願して設立したものである。碑文は、すべての人びとが、原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている。中央の石室には、原爆死没者名簿が納められており、この碑はまた原爆死没者慰霊碑とも呼ばれている。
平和記念 公園周辺 36	平和祈念像 1977年8月2日 中区中島町1番(原爆死没者慰霊 碑北西)	昭和20年8月6日原子爆弾の一閃は全市を廃墟と化し、20有余万の生命を奪い去った事実は世界史上初の一大痛恨事として永遠に忘れる事は出来ない。爾来幾星霜、我々は地下に眠る精霊歎歎の 声に応え平和を求め続けて来たが、いまだに核戦争の脅威と人類滅亡の不安に脅かされている。よっ て我々は原爆犠牲者の生命を永遠ならしめ、人類悠久の平和を願うためかねて全国の児童生徒に呼 びかけ浄財の募金運動を展開し、有志団体の協力を得て、ここにこの像建立の目的を達した。我々 の願いは必ずや世界恒久平和への道に通じるものと確信する。 昭和52年8月(台座背面)	広島平和 祈念像建 設会	全国の学童の募金や広島商工会議所などの協力によって建立された。台座は募金によるものだが、像は円錐勝三氏の寄贈。円錐氏は除幕に際して「親から子どもへ、きのうよりもあすへ。三日月もやがて満月になる。新しい未来を求めて、平和のラッパを鳴らしたい」と制作意図を語った。像の横に草野心平氏の詩碑がある。
平和記念 公園周辺 37	菩提樹の碑 1959年2月6日 中区中島町1番(原爆死没者慰霊 碑北西)	原爆犠牲者の霊にこの菩提樹を捧ぐ 濱田頓蔵寄贈(日英併記)	濱田頓蔵 氏	(詳細不詳)

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 38 (18)	平和の灯 1964年8月1日 中区中島町1番(原爆死没者慰霊 碑北)	—	平和の灯 建設委員 会	丹下健三氏の設計。「核兵器が地上から姿を消す日まで燃やし続けよう」という日 本全国民の平和の象徴。台座は両手を広げた形を抽象化したもので、国内35の社 寺、教会から寄せられた「宗教の炎」や溶鉱炉など全国の工場地帯から届けられた 「産業の火」によって点火された。
平和記念 公園周辺 39	祈りの像 1960年8月15日 中区中島町1番(原爆死没者慰霊 碑北東)	—	平和記念 慰霊国民 大祭実行 委員会	第2次世界大戦を始め、幾多の困難に際して国に殉じた犠牲者の慰霊と平和への 祈りを込めた記念碑。台座の右手前には大木惇夫氏の詩碑がある。
平和記念 公園周辺 40 (19)	平和の池 1957年7月31日 中区中島町1番(原爆死没者慰霊 碑北)	—	日本青年 会議所	1956年の秋、第5回日本青年会議所会員大会が広島で開かれた時、大会の記念 施設を広島に残すことになり、全国各地の青年会議所会員の拠出により完成した。 池は原爆死没者慰霊碑が浮かび上がるように設計されている。
平和記念 公園周辺 41 (21)	旧天神町北組慰霊碑 1973年2月 中区中島町1番(国立広島原爆死 没者追悼平和祈念館南)	昭和20年8月6日憶	旧北天神 町町民一 同	天神町北組は爆心地から近距離に位置していたため、原爆の直撃を受けて全壊・ 全焼した。かつての地に旧町の関係者が昔日をしのび、犠牲者の冥福を祈って建 立した。碑に犠牲者の名前が刻まれている。
平和記念 公園周辺 42 (45)	広島郵便局職員殉職の碑 1975年8月 中区大手町一丁目9番(元安橋東 詰南)	広島郵便局職員288名原爆により殉職	広島郵便 局有縁の 有志	元広島郵便局舎があった場所近くに、原爆受難の地を永久に残したいという願いを 込めて建立。なお、この碑と同様に広島郵便局職員の犠牲者を慰霊する碑として、 「広島郵便局原爆殉職者の碑」(南区)がある。さらに、広島郵便局など郵政関係職 員の犠牲者を慰霊する碑として、「郵政関係職員慰霊碑」(中区)がある。
平和記念 公園周辺 43	平和祈念碑 1984年6月24日 中区大手町一丁目9番(元安橋東 詰南)	全人類の恒久平和のシンボルとして被爆の体験をもつ姉妹都市広島と長崎の両クラブがこの碑を建 立する(日英併記)	広島西ライ オンズク ラブ、長崎 西ライオン ズクラブ	広島西ライオンズクラブと長崎西ライオンズクラブの姉妹縁組締結を記念して、核 兵器の廃絶と恒久平和を願って、同じ「平和祈念碑」を広島・長崎両市に建立した。 碑の建立日付は1984年3月14日と刻まれているが、これは月日のみ広島西ライオ ンズクラブの結成月日としたためである。
平和記念 公園周辺 44 (46)	原爆犠牲建設労働者・職人之碑 1988年8月5日 中区大手町一丁目9番(元安橋東 詰南)	慰霊 原爆犠牲建設労働者・職人之碑(正面) 全建総連に結集する43万人の総意にもとづき 原爆の犠牲となられた建設労働者・職人と家族の霊を 慰め 地球上から一切の核兵器をなくし 平和で豊かな社会をつくることを願ひここに建立する 1988年8月5日 全国建設労働組合総連合会・広島県建設労働組合(背面)	全国建設 労働組合 総連合会、 広島県建 設労働組 合	原爆の犠牲となった広島と長崎の多数の建設労働者や職人及び家族の御霊を慰 め、再び、いかなる国のいかなる民族も犠牲者となってはならないことを後世に伝 えるため、広島と長崎にそれぞれ碑が建立された。碑は、住宅の屋根をかたどっ ている。
平和記念 公園周辺 45	「平和の祈り」句碑 1987年11月12日 中区大手町一丁目9番(元安橋東 詰南)	悲しみの 夏雲へむけ 鳩放つ	広島双葉ラ イオンズク ラブ	刻まれている俳句は、中曽根康弘首相(当時)が、1983年の平和記念式典に参列 した際の感想を詠んだもの。碑は、人の文字型の敷石の上に同型の碑を建立した デザインで、原爆によって生命を奪われた人々の痛みを時代を超えて後世に伝え ようとする気持ちが込められている。
平和記念 公園周辺 46 (49)	石炭関係原爆殉難者慰霊碑 1957年8月6日 中区大手町二丁目5番(元安橋東 詰南、大手町第一公園内)	為原爆殉難者慰霊	元日本石 炭株式会 社、元中国 石炭配給 統制株式 会社、元西 日本石炭 輸送株式 会社	当時、中国石炭配給統制株式会社の社屋はこの地にあり、社屋の中に日本石炭 株式会社と西日本石炭輸送株式会社の出張所があった。被爆により、社員77人の うち76人が犠牲となった。これら犠牲者の冥福を祈って、生き残った職員が全国の 石炭関係業者に募金を呼びかけて、碑を建立した。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
平和記念 公園周辺 47 (47)	原爆犠牲ヒロシマの碑 1982年8月5日 中区大手町二丁目12番(元安橋東 詰南)	天が まっかに 燃えたとき わたしの からだは とかされた ヒロシマの叫びを とともに 世界の人のよ (正面) この記念碑は 原子爆弾のさくれつによって 悲惨な死をとげた犠牲者たちをしのぶブロンズ像と 熱 線をあびてとかされた「カワラ」とで 構成されている。かわらの表面にある あわだち・火ぶくれ状の 変化は これらのかかわりが 想像もつかない 高い温度で焼かれたことを示しており『広島・長崎の原 爆災害』によると 爆心地(爆発点直下の地上点)の温度は 摂氏約4,000度 爆心地から1,000米の地 点でも 摂氏1,800度であった とされている。この記念碑は 爆心地から 南141米の地点にあり 護 岸にそって流れる元安川は「あの時」市民たちのしかばねでうまった。 1977年以降 平和記念公 園一帯で 体験学習を続けていた広島の高校生たちは 元安川河床の泥土の中から 数千点におお よぶ 被爆したかわらの破片を ほりだした。生徒たちは これを「原爆がわら」とよび 焼くくずれた これら瓦片に 被爆死をとげた人間の地獄図の中の叫び 苦しみを 重ねあわせながら 被爆体験を 聞く学習活動をすすめた。そして 核戦争の悲惨さと 核兵器廃絶への課題を学びつつ 平和への決 意を固めあう記念碑の建立を发起し 全国募金運動に たちあがった。呼びかけに こたえ 全国の 小・中・高等学校の児童・生徒たちや 一般市民から寄せられた募金は 二千万円をこえ「あの日」凄 惨をきわめた 爆心地に近い元安川のこの岸辺に「原爆犠牲 ヒロシマの碑」は 建立された。“ふた たび戦争の悪業を重ねてはならない 原爆の惨禍をくりかえしてはならない。” 爆発点直下にあつて 一瞬にして その命を絶たれた人びと 熱線・爆風・放射線による 原爆症およびその後障害によって 犠牲となった 二十数万の人間の 痛恨の叫びを ここに永遠に記し「ヒロシマの心」として 訴えつづ けるものである(背面、日英併記)	原爆犠牲ヒ ロシマの碑 建設発起 56団体	1977年以降、平和学習に取り組んできた広島の高校生らが、フィールドワークとし て元安川河床の被爆したかわらの発掘を進めた。そして、核戦争の悲惨さと核兵器 廃絶への課題を学びつつ、被爆したかわらを使った記念碑の建立を发起し、募金 運動を行い、建立した。ブロンズ像は昇天する犠牲者の魂を表現したもので、台座 の表には被爆がわらを組み合わせせたパネルと碑文、裏には被爆がわらの発掘作 業のレリーフと被爆当時の写真などがはめ込まれている。毎年8月5日、小中高校 生による碑前祭が行われている。
平和記念 公園周辺 48 (48)	広島瓦斯株式会社原爆犠牲者追 憶之碑 1967年8月2日 中区大手町二丁目12番(元安橋東 詰南、大手町第一公園西)	1945年8月6日被爆	広島瓦斯 株式会社	当時、広島瓦斯株式会社本社はこの地にあった。被爆により、本社に出勤中の35 人を含む社員69人が犠牲となった。碑の上部には5基のガス灯があり、黄色い炎を 灯し続けている。
平和記念 公園周辺 49 (50)	広島県農業会原爆物故者慰霊碑 1971年8月6日 中区大手町二丁目12番(平和大橋 東詰北)	昭和20年8月6日午前8時15分広島市上空に炸裂した1発の原子爆弾により全市は一瞬にして壊滅し 阿鼻叫喚の巷と化す 猛火市井を襲って廃墟となり広島県農業会役職員80余名尊き犠牲となる ここ 広島支所の在りしゆかりの地に近く碑を建立して犠牲者の霊を祀る。	広島県農 業協同組 合中央会、 広島県信 用農業協 同組合連 合会、広島 県経済農 業協同組 合連合会、 広島県同 業社共済 農業協同 組合連合 会、広島県 厚生農業 協同組合 連合会	当時、農業会広島支所があった場所に、農業会役職員の犠牲者の御霊を慰めるた め、建立された。碑の背面に、犠牲者83人の名前が刻まれている。
平和記念 公園周辺 50 (51)	被爆勤員学徒慰霊慈母観音像 1966年7月31日 中区大手町三丁目14番(平和大橋 東詰南)	観音となりて平和を守りゆく 少年学徒らの みたま尊し 山本康夫(台座) 慈母観音に抱かれ眠る 汝が姿心にえがきて われら安らぐ 益田礼助(築山)	被爆勤員 学徒観音 像奉賛会 (当時の市 内21校の 遺族有志)	当時の市内21校の旧制中学、女学校生徒の遺族有志が世話人となり建立した。死 没者約4千人の名前を刻んだプレートが築山内に納められている。
白島01 幟町01	安田高等女学校職員生徒慰霊碑 1951年5月 中区白島北町1番41号(安田学園 白島キャンパス内、中学校校舎 東)	この慰霊碑は昭和20年8月6日広島市に投下された原爆により尊い生命を失った職員13名及び生徒 310余名の霊永久に安かれと祈念し職員生徒の奉仕を得て安田学園が建立したものである。	安田学園	安田高等女学校は、県庁北側(現在の平和記念公園付近)で建物疎開作業に動員 中の職員、生徒が全滅するなど、多くの犠牲者を出した。碑の横には、職員13人、 生徒315人の犠牲者の名前を刻んだ名録碑がある。 ※見学する場合、正門で警備員に見学したい旨を伝え、受け取ったゲストカードを 着用

原爆関係の慰霊碑等の概要(中区内)

令和7年7月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
白島02 幟町02	工兵第五連隊慰霊碑 1983年11月 中区白島北町1番(工兵橋南詰、 安田学園白島キャンパスプール 北)	工兵第五聯隊跡地(正面) 工兵第五聯隊 工兵第三十九聯隊 船舶工兵部隊 昭和五十八年十一月建立(背面)	工兵第5連 隊、工兵第 39連隊、船 舶工兵部 隊	当時、この地には中国軍管区工兵補充隊(旧工兵第5連隊)が駐屯していた。6日午前8時ごろ、下士官要員約100人が入隊するとともに、在隊者は作業演習のため、営庭に集合していた。被爆により、多数の隊員が犠牲となった。
白島03 幟町03	白島九軒町原爆死没者慰霊碑 1998年5月10日 中区白島九軒町25番(白潮公園 内)	原爆死没者を火葬したこの地に慰霊の碑を建て哀悼の意を表すると共に世界平和を念願する。平成10年4月吉日建之 白島九軒町町内会 会長 国分良徳(背面) 原爆慰霊碑建立の趣意 爆心地より1.7キロ離れた白島九軒町は、被爆後火災によりほとんど焼失しました。火に追われこの河原に避難し火傷、負傷で苦しみながら悲惨な死を遂げた町民を火葬にしたこの地に、慰霊碑を建立し死没者の冥福を祈ると共に世界の平和を祈念します。平成10年5月吉日 白島九軒町町内会(横の木札)	白島九軒 町町内会	1995年、国分氏が町内会長就任を機に碑建立を提唱し、町民の協力を得て建立した。当時、この辺りの河原には、市内中心部で被爆し避難してきた人が大勢押し寄せた。中には、力尽き、この地で茶屋に付された人もいた。
白島04 幟町04	郵政関係職員慰霊碑 1976年8月6日 中区東白島町19番8号(日本郵政 グループ広島ビル前庭)	慰霊のことば 昭和20年8月6日午前8時15分、世界最初の原子爆弾が広島に投下され、一瞬にして街は焦土と化し、20数万人の尊い生命が失われました。焦げ付く太陽の下、炎に追われながら水を求めてさまよい歩く被災者は数知れず、また、焼けただれた遺体が至る所どころがり折り重なって、まさに焦熱地獄の惨状を呈したといわれております。郵政部内においても、当時の広島郵便局の288人をはじめ、西部通信総局広島通信局・広島通信病院・広島地方貯金局・広島市内各郵便局の職員等、合わせて500有余人が尊い犠牲となられたことは、誠に痛恨の極みであります。あれから30有余年が過ぎた今日も、原爆の後遺症に苦しんでおられる人が多いことを思うとき、再びこのような悲劇が繰り返されはなりません。皆様の霊を慰め永遠の平和を祈念するため、昨年被爆30周年を機に、遺族・退職者・全通労組・全通被爆者の会、並びに、郵政局・監察局、それぞれの代表者により、「原爆慰霊碑建設委員会」を設け、有志の浄財によってこの碑を建立しました。どうか安らかに眠ってください。昭和51年8月6日 原爆慰霊碑建設委員会(背面)	原爆慰霊 碑建設委 員会	爆心直下の広島郵便局など郵政関係機関の職員約500人を慰霊するため、碑が建立された。碑は、水を求めた人々への思いを表す池に囲まれている。碑の前には、被爆した旧庁舎玄関ホールにあった階段の一部が保存されている。なお、広島郵便局職員の犠牲者を慰霊する碑として、「広島郵便局職員殉職の碑(中区)」と「広島郵便局原爆殉職者の碑(南区)」がある。 ※会社休業日(土日祝日など)は見学不可。見学時間は9時～17時45分
白島05 幟町05	国鉄原爆死没者慰霊碑 1973年8月6日 中区東白島町23番(東白島公園 内)	天を撃つな 戦雲を射て 人を撃つな 戦禍を射て 原爆広島に眠る 無名の霊よ 国鉄の魂よ 霊の目はみつめ 魂の手をつかむ 平和と未来とを(前の石碑)	国鉄労働 組合原爆 被害者対 策協議会	被爆により、国鉄職員400人以上が犠牲となった。碑は、国鉄労働組合(国労)が原水爆禁止運動に取り組む中で建立決議が行われ、募金によって広島・長崎に建立された。
基町01 幟町06	電信電話職員原爆犠牲者慰霊碑 1955年8月 中区基町6番77号(第7棟NTT西日本 基町ビル(NTTクレド基町ビルの 西隣)北西)	ひろしまの追憶は 世界の追憶であれ ひろしまの嘆きは世界の嘆きであれ 天地くだけたる日のくろしみを 告ぐことなく わが友は ここに眠る。 原爆10周年にあたり日本電信電話公社職員の心からなる募金によってこれを建つ。(背後の壁面) 昭和20年8月6日午前8時15分 晴れわたった空に閃光一閃 一瞬のうちに広島は廃墟と化してしまいました 当時広島では緊迫した情勢の中で約2000名の職員が電信電話の仕事にたずさわっていましたがそのうち600名近くの人たちがとうとい命をうしなわれ 平和のいしずえとなられました この慰霊碑は原爆10周年にあたる昭和30年8月 亡くなられた方々への心からの追悼とみたま安かれとの願いをこめて日本電信電話公社の職員の手によって建てたものです(横の石碑)	電々公社 職員有志	爆心地から540メートルに位置していた広島中央電話局など電信電話関係機関の職員を慰霊するため、募金により碑が建立された。中央にきのこ雲をかたどった碑を設置し、その中に動員学徒を含む電信電話職員の犠牲者名簿が納められている。毎年、碑の前で慰霊祭が行われている。なお、広島中央電話局の犠牲者を慰霊する碑として、「広島中電話局鎮魂の碑」(中区)がある。
基町02 幟町07	日本銀行広島支店職員慰霊碑 1966年8月6日 中区基町8番17号(日本銀行広島 支店4階)	—	日銀慰霊 碑建立世 話人会	当時、日本銀行広島支店は袋町(爆心地から380メートル)にあり、出勤途中の行員を含め、42人が犠牲となった。碑には、犠牲者の名前が刻まれている。1992年、現在地への社屋移転に伴い碑も移設され、4階の壁にはめ込まれている。 ※見学する場合、原則3週間前までに事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-227-4100)で)
基町03 幟町08	水道部員殉職之碑 1949年8月6日 中区基町9番32号(広島市水道局 駐車場東)	為原子爆弾罹災者建之(背面) 三上水道部長外82名(右側面)	広島市上 水課	当時、現在地周辺に広島市水道部基町庁舎(爆心地から550メートル)はあった。原爆により庁舎は壊滅し、庁内にいた職員は全員犠牲になるなど、水道部全職員186人のうち83人の尊い命が奪われた。水道施設も甚大な被害を受けたものの、職員の懸命な応急復旧により、市全域での断水が避けられた。広島の水道はこの不断水の記録を今日まで守り続けている。
基町04 幟町09	中国軍管区司令部軍人・軍属・動 員学徒慰霊碑 1979年5月 中区基町21番(広島護国神社東)	原爆に散華された旧中国軍管区司令部軍人軍属(旧広島師団司令部)・旧比治山高等女学校動員学徒の皆様 いつもあなたたちを憶う 8月6日を思う あなたたちの尊い犠牲を無にすることなく とわに世界の平和に結びつけたい どうぞお心安らかに(背面)	広島師友 会	当時、広島城を中心とする基町一帯は、軍の施設が集まる一大軍事拠点で、その中心ともいえる中国軍管区司令部の庁舎は広島城の本丸と二の丸に置かれていた。原爆により、軍関係者のほか、通信業務に動員されていた比治山高等女学校等の生徒・教員も犠牲となった。碑の横には、比治山高等女学校生徒が広島壊滅の第一報を発信した中国軍管区司令部防空作戦室跡が残っている。なお、司令部軍関係者の犠牲者を慰霊する碑として、「中国軍管区司令部殉職の碑」(南区)がある。

原爆関係の慰霊碑等の概要(中区内)

令和7年7月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
基町05 幟町10	広島陸軍病院原爆慰霊碑 1955年8月6日 中区基町22番(三篠橋東詰南、本 川河岸緑地)	昭和20年(1945)8月6日広島が人類最初の原子爆弾により、一瞬にして20数万人の尊い犠牲者を生じるに至った。爆心地に極めて近かった元広島陸軍病院に勤務の職員以下及び入院中の患者等で被爆死された方々の御霊を永遠にお祀りするため、同病院関係の生存者で職員・その他有志並びに遺族賛助者等により、広島陸軍病院原爆慰霊会を結成し昭和30年8月6日原爆10周年を記念しこの病院跡に当時の表門石柱を碑とし台石は全部病院の庭石等を用い、ここに「広島陸軍病院原爆慰霊碑」を建立した。 ついで同50年8月6日30周年記念行事として合祀名碑の建立並びに同病院の遺跡(明治以来の記念碑及び被爆当時の裏門石柱など)保存と併せて敷地の整備をも計画し昭和52年8月6日完成するに至った。御霊よ どうぞ 安らかに お眠りください。 合掌 昭和52年8月6日 誌之。 広島陸軍病院原爆慰霊会(横の合祀名碑背面)	元広島陸軍病院関係有志・広島陸軍病院原爆慰霊会	当時、広島城を中心とする基町一帯は、軍の施設が集まる一大軍事拠点で、第1陸軍病院と第2陸軍病院も配置されていた。現在地は第2陸軍病院の跡地である。両院の被爆直前の収容患者数は約千人で、爆心地から近いこともあって多くの犠牲者を出した。合祀名碑に「広島陸軍病院原爆死没者合祀者」として陸軍病院職員738人の名前が刻まれている。このほか、収容患者約千人が犠牲となった。元の病院の被爆した庭石を積み重ねた上に、病院の門柱を碑石としている。
幟町01 幟町11	広島法曹原爆物故者慰霊碑 1965年8月6日 中区上八丁堀2番43号(広島高 等・地方・簡易裁判所、西側前庭)	敬憶	広島の法曹関係者有志	原爆の犠牲となった元広島控訴院、広島地方裁判所、広島区裁判所及び広島弁護士会の関係者をしのぶため、全国の法曹関係者約1600人からの募金により建立。背面に、被爆し、死亡した68人の名前が刻まれている。 ※見学する場合、正門で警備員に見学したい旨を連絡
幟町02 幟町12	国税職員原爆慰霊碑 1965年8月6日 中区上八丁堀6番30号(合同庁舎 中庭、1号館附属棟西)	和(正面) 原爆により死没した国税職員のみたま安かれと祈り とこしえの平和を祈念してこれを建てる。 昭和40年8月6日 国税職員一同・同出身者一同(背面)	国税職員一同・同出身者一同	原爆投下により、広島財務局(現在の広島国税局)の職員84人、広島税務署の職員41人、学徒動員により勤務していた広島女学院の生徒19人の合計144人が亡くなった。亡くなった方々の霊を弔うため、原爆投下20年後の1965年8月6日、国税職員や亡くなった方々の遺族、先輩方の意思により、合同庁舎敷地内に碑が建立された。 ※見学する場合、広島合同庁舎には駐車できません。
幟町03 幟町13	広島通産局慰霊碑 1977年8月6日 中区上八丁堀6番30号(合同庁舎 中庭、1号館附属棟西)	祈(正面) 昭和20年8月6日 広島に投下された原子爆弾のため尊い生命を失われた職員の霊を慰め 永遠の平和を祈りこの碑を建てる(背面)	広島通産産業局関係職員原爆慰霊碑建立会	現在の中国経済産業局に当たる中国地方軍需管理局は、当時、爆心地から710メートルの福屋百貨店内にあった。原爆の強烈な爆風により建物内の施設や備品は飛散し、多くの犠牲者を出した。 ※見学する場合、広島合同庁舎には駐車できません。
幟町04 幟町14	中国海運局職員慰霊碑 1970年8月6日 中区上八丁堀6番30号(合同庁舎 中庭、1号館附属棟西)	中国海運局原爆犠牲者慰霊のためにこの碑を建つ(台座背面)	慰霊碑建立発起人会	中国海運局(現在の中国運輸局の一部門)は、当時、爆心地から710メートルの福屋百貨店6階にあった。原爆の強烈な爆風により建物内の施設や備品は飛散し、多くの犠牲者を出した。円形の碑正面の縁に、犠牲者19人の名前を刻んでいる。 ※見学する場合、広島合同庁舎には駐車できません。
幟町05 幟町15	済美国民学校職員生徒慰霊碑 1970年8月6日 中区八丁堀7番11号(広島YMCA 2号館、南西角)	済美学校は明治5年2月能美円乗先生により創立された開成社を前身とする 明治26年済美学校となり人格的訓育を主眼においた教育は全国に多数の英才を輩出した 昭和20年8月6日原子爆弾により校舎は壊滅し 職員生徒多数死没した 同年12月廃校となり73年の歴史を終えた 洵に懐旧の情にたえず校舎あとに記念碑を建て 済美の偉業を後世にとどめる 昭和45年8月6日 済美学校卒業生及び旧職員一同(横の説明板)	済美学校卒業生及び旧職員一同	済美国民学校は、陸軍の将校准士官の親睦組織である偕行社が経営する小学校。学校は、爆心地から700メートルの現在地にあった。被爆時、校舎にいた教職員5人、児童約150人は、全滅したと思われる。碑の傍らに当時の門柱が建つ。
幟町06 幟町16	縮景園原爆犠牲者慰霊碑 1988年3月19日 中区上幟町2番11号(広島県縮景 園内。正門を入り、跨虹橋を渡った 先の丘の辺り)	この碑は、昭和20年8月6日原子爆弾投下による被爆犠牲者の御霊のご冥福を祈るとともに、永遠なる戦争の再発防止や、核兵器の廃絶を県民こそぞって提唱し世界恒久平和の確立を期するため建立したものである。 昭和63年3月19日 広島県縮景園長(背面右) この1枚の被爆写真を手がかりに昭和62年7月31日埋葬地点を発見、64体のご遺体を発掘し、同年8月6日平和記念公園内原爆供養塔に納骨した。 写真撮影者は、元朝日新聞社カメラマン松本栄一氏、揮毫は茶道の上田宗簡流家元上田宗源氏(背面左)	縮景園原爆犠牲者慰霊供養会	1987年7月下旬、被爆直後の縮景園を撮った写真が発見され、その1枚に、「戦死者之墓38名」「戦死者墓5名」「戦死者21名墓」と記した3本の立て札が並んで写っていた。県教育委員会が同年7月31日と8月1日、遺骨の発掘調査を行ったところ、数千点の骨片を収集し、6日、原爆供養塔に納骨した。これを機に、地元町内会や老人クラブなど11団体からなる供養会が結成され、碑が建立された。毎年8月1日、供養祭が行われている。 ※見学する場合、入園料が必要
幟町07 幟町17	広島女学院高等女学校職員生徒慰霊碑 1953年4月 中区上幟町11番32号(広島女学 院中学・高等学校内、ゲース記 念ホール東)	昭和20年8月6日の原爆に斃れた教職員18名生徒300余名の霊を合祀してその平安を祈る。 昭和28年4月吉日 広島女学院 これは復活なり 生命なり 我を信ずるものは 死ぬとも生きん(ヨハネ伝)(背面)	広島女学院	女学院高等女学校1、2年生350人は、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開作業中に被爆し、大半が死亡したり、重軽傷を負った。聖書の一節を刻んだ碑は、十字をかたどっている。碑は当初、女学院大学構内に建立されたが、1991年、現在地に移された。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-228-4131)で)
幟町08 幟町18	市立幟町国民学校職員生徒・特設警備隊慰霊碑 1981年7月 中区幟町11番(幟町公園内)	慰霊 幟町国民学校跡(正面) 中部第32037部隊 広島東部、中部第32057部隊世羅郡、部隊所属婦人挺身隊、幟町国民学校教職員児童(背面)	旧幟町国民学校教職員卒業生有志・旧警備隊世話人会	当時、幟町国民学校(現在の幟町小学校)は、現在の小学校地から南方の、碑が建立している辺り(爆心地から1.1キロメートル)にあった(1949年、幟町小学校は現在の場所に移転した。)。碑は、被爆当時校内に駐屯していた兵士らを含めて犠牲になった多くの人々を慰霊するため、建立された。

原爆関係の慰霊碑等の概要(中区内)

令和7年7月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
幟町09 幟町19	堀川地区町民慰霊碑 1957年8月6日 中区新天地1番(中央通り沿い歩道)	殺身以成仁 They sacrificed their lives to preserve their virtue complete! (Confucian Analects).	堀川町原爆慰霊碑建設委員会	当時、堀川町(現在の新天地)は爆心地から750メートルに位置し、多くの犠牲者を出した。台座の上のブロンズ像は、被爆者の悲しみと苦しみを表しており、高く伸ばした手は、原爆がさく裂した爆心を指している。碑文は論語の一節。
袋町01 国泰寺01	広島銀行役職員物故者慰霊碑 1968年11月 中区紙屋町一丁目3番8号(広島銀行本店屋上)	役職員物故者のみたまここに鎮まる その遺業をたたえ景慕敬弔の誠を捧げる 創業90周年を迎えて昭和43年11月 頭取 井藤勲雄(背面)	広島銀行	芸備銀行(現在の広島銀行)本店は爆心地から260メートルの位置にあった。原爆により、本店建物内で被爆した17人を含む行員144人が犠牲となった。外形のみ残して内部が全焼した本店建物は、被爆後改修して使用されていたが、1965年に建て替えられた。1968年、創業90周年を迎えたのを機に慰霊碑が建立された。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-247-5151)で広報・地域貢献室へ)
袋町02 国泰寺02	NHK原爆の碑 1966年3月22日 中区大手町二丁目11番10号(NHK広島放送センタービル南)	—	NHK広島放送局	当時、広島中央放送局(現在のNHK広島放送局)の局舎は上流川町(現在の幟町。爆心地から1キロメートル)にあった。原爆により、職員260人のうち34人がその日のうちに死亡した。放送は、翌日午前9時に再開された。局舎は1960年、大手町に移転した。碑は局舎の建て替えに伴い1994年、現在地に移設された。
袋町03 国泰寺03	ヒロシマの火 平和への灯 2007年8月1日 中区大手町二丁目11番10号(NHK広島放送センタービル南)	ヒロシマの火 平和への灯	NHK広島放送局	モニュメントには、平和記念公園の「平和の灯」と福岡県星野村の「平和の火」から分火された、“2つの火”が灯されている。「平和の火」は、1945年、星野村出身の山本達雄さんが、原爆で亡くなった親戚の形見として、廃墟となった広島の街から持ち帰った“原爆の火”である。自らも被爆した山本さんは、多くの尊い命が奪われた“ヒロシマ”を忘れてはならないと、自宅で絶やすことなく火を守り続けた。その後、1968年、この火は「平和の火」として星野村に引き継がれ、広島から遠く離れた地で、今も、燃え続けている。モニュメントに灯された“ヒロシマの祈りの火”は、原爆で亡くなられた方々の霊を慰め、核廃絶と恒久平和を願い燃え続けている。
袋町04 国泰寺04	平和への誓い～被爆放送局の碑～ 2005年8月6日 中区大手町二丁目11番10号(NHK広島放送センタービル南)	—	NHK広島放送局	1928年に完成した初代の広島放送局は、上流川町(現在の幟町。爆心地から1キロメートル)にあった。原爆投下により放送局も壊滅的な状態となったが、翌日には被災を免れた施設を使って放送を再開した。広島放送局はその後、1960年、大手町に移転したが、被爆した旧局舎は、1997年に老朽化により解体されるまで、福屋百貨店幟町別館として利用された。被爆60年にあたり、核兵器の恐ろしさを世界に伝え、恒久平和の願いを永遠に受け継いでいく誓いを込めて建立されたモニュメントは、被爆した旧局舎の縁石の一部を使い、原爆の投下された「午前8時15分」を表している。
袋町05 国泰寺05	日本放送電株株式会社中国支店原爆殉職者慰霊碑 1953年4月 中区大手町三丁目14番(エネパーク大手町西、元安川河岸緑地)	慰霊碑	日本放送電株株式会社中国支店	当時、日本放送電株中国支店(現在の中国電力株)は爆心地から900メートルの位置にあった。原爆により、木造2階建ての社屋は崩壊し、焼失した。当日、支店で勤務していた117人のうち1年以内に115人が犠牲となった。他で被爆した者を含め、同支店では、169人の犠牲者を出した。
袋町06 国泰寺06	大手町小学校・国民学校跡地記念碑 1985年2月 中区大手町四丁目1番8号(NTTドコモ中国大手町ビル南西)	慰霊 原爆死殉教職員並に同窓生(背面) 昭和60年2月吉日建立 教職員、同窓生一同(横面)	大手町小学校・国民学校教職員、同窓生一同	当時、大手町国民学校は、現在、碑が建立されている辺り(爆心地から1.1キロメートル)にあった。原爆により、教職員と児童約40人が犠牲となり、校舎は倒壊し、跡形もなく焼き尽くされた。被爆後、開校されることなく、廃校となった。
袋町07 国泰寺07	広島中電話局鎮魂の碑 1985年3月1日 中区袋町6番11号(NTT袋町ビル北)	昔、ここに広島中電話局があった。昭和20年8月6日、午前8時15分、原子爆弾が投下されすさまじい爆風と熱線により、建物が壊滅状態となった。当日勤務していた職員、女子挺身隊員、動員学徒等451名のうち約半数におよぶ尊き命が失われた。当ビル新築にあたり、旧庁舎屋上に使用されていた被爆タイルを埋め込み、当時をしのぶこととした。(横の説明板)	日本電信電話公社中国電気通信局	広島中電話局は、爆心地から540メートルの位置にあった。当日、電話局に勤務していた451人のうち209人が犠牲となった。建物は躯体を残して全焼したが、改修し、使用された。建物建て替えに当たり、遺族会や職員などから建物の一部保存の要望を受け、旧局舎屋上に使用されていた被爆タイル104枚をはめ込んだ壁面と碑を建立した。なお、電信電話関係の犠牲者を慰霊する碑として、「電信電話職員原爆犠牲者慰霊碑」(中区)があり、同碑の前で毎年、慰霊祭が行われている。
袋町08 国泰寺08	袋町地区原爆死没者慰霊碑 1992年8月1日 中区袋町9番(袋町公園内)	爆心の袋町にあって、総てを絶たれ、いまなおその証しさえなく眠る原爆死没者のみ霊に捧げるためこの碑を建立する 平成4年8月 袋町地区社会福祉協議会 袋町地区原爆死没者慰霊碑建立委員会 袋町地区(旧町名・猿楽町・立町・細工町・横町・鳥屋町・塩屋町・尾道町・播磨屋町・平田屋町・革屋町・研屋町・東魚屋町・袋町・新川場町・下中町・中町・国泰寺町・西魚屋町・雑魚場町・小町・紙屋町・鉄砲屋町・大手町1丁目～8丁目)(台座背面)	袋町地区社会福祉協議会、袋町地区原爆死没者慰霊碑建立委員会	爆心地を含む袋町地区は、被害が最も大きな地区の一つで、多くの犠牲者を出した。1992年、碑建立の声が高まり、碑建立委員会が結成され、募金により碑が建立された。碑の台座と敷石の一部には、地区内にある旧広島市庁舎と旧元安橋の被爆石が使われている。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
袋町09 国泰寺09	移動演劇さくら隊原爆殉難碑 1955年8月6日 中区小町1番(三井ガーデンホテル広島南東、平和大通り緑地帯)	移動演劇さくら隊原爆殉難碑の由来 広島移動演劇さくら隊原爆殉難碑は、原爆投下から7年後の1951年(昭和26年8月)中国新聞社芸能記者の人達によって「丸山定夫・園井恵子 追慕の碑」として、白いペンキ塗りの質素な木の碑として新川場町のどぶ川のほとりに建立された。それから4年後の1955年(昭和30年)8月に広島で開かれた第一回原水爆禁止世界大会で、碑の建設が、劇団俳優座の永田靖氏らによって、新劇人へ呼びかけられた。建設に当たっては徳川無声、八田元夫、山本安英の各氏が奔走し、1959年(昭和34年)8月、新制作座、文学座、俳優座、ぶどうの会、民芸、中央芸術劇場、演劇人の6劇団と「演劇人戦争犠牲者記念会」の協力によって建立された。碑の「桜隊」の「桜」が「さくら」と仮名文字で彫られているのは、占領下のもとであったため漢字の「桜」は使用出来なかった。2000年8月 広島市民劇場	新協劇団、文学座、俳優座、ぶどうの会、民芸、中央芸術劇場、演劇人戦争犠牲者記念会	桜隊は、戦争末期、軍隊や工場などの慰問公演のために広島を拠点に活動していた移動劇団で、9人編成だった。隊員は堀川町(現在の新天地。爆心地から750メートル)の宿舎で被爆し、5人が即死し、4人は東京などに逃れたが、月末までに全員が死亡した。戦後、ゆかりの新劇人らによって被爆場所に近い現在地に碑が建立された。碑の背面には、犠牲者9人の名前が刻まれている。
袋町10 国泰寺10	殉職医師・医療従事者合同慰霊碑 1955年8月 中区小町2番(中町信号機南西、平和大通り緑地帯)	身を挺し市民救護の使命に殉じた医師看護婦の霊を祀る。昭和35年8月 被爆15周年にあたりて広島市医師会これを建つ(横の石板)	広島市医師会	戦争末期、広島市内の医師、歯科医師、薬剤師、看護婦など医療関係者は、市外への疎開を禁止されていたため、その多くが犠牲となった。医師を国手と呼ぶことにちなんで、碑は“大地に生えた手”を表している。
袋町11 国泰寺11	広島県立広島第一高等女学校職員生徒追憶碑 1955年8月 中区小町2番(三井ガーデンホテル広島南西、平和大通り緑地帯)	昭和20年8月6日遭難 職員校長共20名 生徒277名及同窓生(側面) 今学び舎のこの跡に 受難の跡を弔いて み墓の前にぬかずけば 無量の思い胸にわく ああ師の君よわが友よ 鎮まり給え安らげく(背面)	第一県女原爆犠牲者遺族会	当時、爆心地から600メートルのこの地に広島県立広島第一高等女学校(現在の広島皆実高等学校)の正門があった。当日在学していた生徒のほか、建物疎開作業に出動していた1年生と引率の教師が全滅するなど、多くの犠牲者を出した。校舎は爆風により倒壊し、焼失した。右奥の石柱は、当時の門柱の一つである。
袋町12 国泰寺12	広島県職業安定行政原爆殉職者鎮魂の碑 1995年8月6日 中区国泰寺町一丁目1番41号(国泰寺中学校南端歩道沿い)	昭和20年8月6日、職業安定行政職員41名が建物疎開の勤務奉仕中原爆によりこの地で殉職された。この碑は再びこうしたことのないことを願いつつ建立したものである(右側面) 平成7年8月6日 広島県職業安定行政経験者及び職員有志一同(左側面)	広島県職業安定行政経験者及び職員有志	職業安定行政とは現在のハローワークの業務である。広島国民労働員署の職員が、建物疎開作業に動員されてこの地(雑魚場町。現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で犠牲となった。碑の後ろには、41人の犠牲者の名前を刻んだ名録碑がある。この辺りは、同署職員同様に建物疎開作業に動員された多数の女学生が犠牲となった場所で、道路の向かい側には彼女らを追悼する慰霊碑(殉国学徒の碑(中区))が建立されている。
袋町13 国泰寺13	広島県立広島第一中学校職員生徒追憶の碑 1948年8月6日 中区国泰寺町一丁目2番49号(広島国泰寺高等学校内、正門入って右)	昭和20年8月6日戦災死職員生徒追憶ノ為3周年日之ヲ建ツ(背面)	一中遺族会	広島県立広島第一中学校(現在の広島国泰寺高等学校)1年生約150人は学校南側(雑魚場町。現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開作業中に被爆し、全滅した。また、残りの1年生約150人は校舎内(爆心地から約900メートル)で待機中に被爆し、ほとんどが犠牲となった。さらに、3年生の一部約50人は、土橋付近(爆心地から約800メートル)で建物疎開作業中に被爆し、全滅した。このほか、他の学年の生徒9人も犠牲となった。碑の後ろに職員12人、生徒354人の名前を刻んだ名録碑(1958年10月26日建立)がある。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-1537)で)
袋町14 国泰寺14	広島市原爆死没公務員慰霊碑 1965年12月18日 中区国泰寺町一丁目6番34号(広島市役所本庁舎前庭)	昭和20年8月6日の原子爆弾により尊い生命を失なわれた本市公務員の霊のためにこの碑を建て永遠の平和を祈る。昭和40年12月 広島市長 浜井信三(後ろの壁面)	広島市	当時の栗屋市長を始め、原爆の犠牲となった市役所職員及び市会議員を慰霊するために建立され、慰霊碑建立と合わせた実態調査によると、死没者数は445名である。爆心地から1キロメートルの位置にあった本庁舎は、躯体は残ったが、内部は焼失した。碑の横には、旧庁舎の地下室の一部を利用して、原爆被災資料を展示する資料室が整備されている。
袋町15 国泰寺15	広島県立広島第二高等女学校殉国学徒の碑 1952年8月6日 中区国泰寺町一丁目9番30号(荒神堂境内)	嗚呼 昭和20年8月6日学徒動員作業中原爆により教官2名生徒43名平和の礎となる(背面)	広南同窓会・遺族会	広島県立広島第二高等女学校(現在の広島皆実高等学校)2年生の1クラスは、爆心地から1.2キロメートルのこの地(雑魚場町。現在の国泰寺町一丁目)で建物疎開作業中に被爆し、1人を除いて全滅した。碑は、同じ場所で被爆し、犠牲となった生徒らを慰霊する「広島女子高等師範学校・同附属山中等女学校殉国学徒の碑」と同じ台石に建てられている。また、荒神堂の入口には「原爆記念雑魚場疎開地跡」の石柱が建てられている。
袋町16 国泰寺16	広島女子高等師範学校・同附属山中等女学校殉国学徒の碑 1952年8月6日 中区国泰寺町一丁目9番30号(荒神堂境内)	嗚呼 昭和20年8月6日学徒動員作業中原爆により教官4名生徒382名平和の礎となる(背面)	橘香会(同窓会)・遺族会	広島女子高等師範学校附属山中等女学校(現在の広島大学附属福山中学・高等学校)1、2年生は、爆心地から1.2キロメートルのこの地(雑魚場町。現在の国泰寺町一丁目)で建物疎開作業中に被爆し、1人を除いて全滅した。また、市内の軍需工場に動員されていて犠牲となった広島女子高等師範学校(現在の広島大学)生徒も多数いる。碑は、同じ場所で被爆し、犠牲となった生徒らを慰霊する「広島県立広島第二高等女学校殉国学徒の碑」と同じ台石に建てられている。また、荒神堂の入口には「原爆記念雑魚場疎開地跡」の石柱が建てられている。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
竹屋01 国泰寺17	三川町町民慰霊碑(子まもり地藏尊) 1949年秋 中区三川町8番12号(円隆寺境内墓地)	—	円隆寺	当時、国民学校(現在の小学校)まで遠距離の地区に住んでいた児童は、近くの寺などを分教場として、そこで授業を受けていた。円隆寺は、竹屋国民学校(現在の竹屋小学校)の分教場の一つで、寺にいた児童25人全員が犠牲となった。他の場所で被爆し、助かった住職が、犠牲となった子どもたちの供養のために地藏尊を安置した。 ※お話を伺いたい場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-7420)で)
竹屋02 国泰寺18	歯科医師職員慰霊碑 1967年8月6日 中区富士見町11番9号(広島県歯科医師会館前北東)	—	広島市歯科医師会	原爆で犠牲となった歯科医師と職員を慰霊するために建立された。
竹屋03 国泰寺19	竹屋地区原爆慰霊碑 2008年8月 中区鶴見町8番49号(竹屋小学校内、校舎南の中庭)	原爆慰霊碑 平和の祈り 永遠にとどけ	竹屋地区 社会福祉 協議会、竹 屋小学校 同窓会	竹屋国民学校(現在の竹屋小学校。爆心地から1.5キロメートル)では、当時学校にいた教師5人、児童50人が犠牲となった。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-9138)で)
千田01 国泰寺20	浪切不動尊(龍心寺原爆死没者慰霊の像) 1956年4月28日 中区大手町五丁目2番11号(龍心寺境内)	原爆死者之霊(台座)	新長武氏	当時の住職が、原爆犠牲者を弔おうと呼びかけ、信者の寄進によって建立された。背負っている火は原爆の炎を表す。傍らの童子の像は、炎に追われ、炎に消えた幼い広島子どもたちを表している。向かって右の像は合掌して冥福と平和を祈り、左の像は再建へ励む姿とも言われる。
千田02 国泰寺21	大手町地区町民原爆犠牲者慰霊碑 1970年8月6日 中区大手町五丁目23番(新明治橋東詰南、元安川河岸緑地)	—	新長武氏 (寄贈)、鷹 野橋商店 街振興組 合	大手町という名は、広島城大手門から川に沿ってできた町に由来し、かつては藩士の屋敷が続いていた。当時、大手町は一丁目から九丁目まであり、爆心地に近い六丁目辺りまではほとんど全滅の状態だった。
千田03 国泰寺22	広島大学原爆死没者追悼の碑 1974年8月6日 中区東千田町一丁目1番89号(広島大学東千田キャンパス内、東千田共用施設C棟東)	昭和20年8月6日、広島に原子爆弾が投ぜられた。一瞬、莫大な破壊を生じ、無数の人命を奪ったのみならず、その被害は長く今日に及び、身心の傷痕なお癒ゆることがない。本学前身諸学校のうち、広島文理科大学、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、同附属中学校、同附属国民学校、広島女子高等師範学校、同附属山中等女学校、広島師範学校、同附属国民学校、広島県立医学専門学校、広島市立工業専門学校は当時市内に所在し、直接被災した。その教職員並びに学生生徒児童は学校の内外において死傷し、また後遺症により没した者多きを数える。爾来星霜30年を経て、被爆により死没せられた人々を悼む心吾人において益々ふかく、核兵器を憎み、その完全な廃絶と、世界恒久の平和を願うこと切なるものがある。ここに有志相はかり、建碑して追悼の意を表するとともに、広島大学が人類平和の確立に敢然寄与すべきふかい学問的責務を負う所以を永久に銘記する。 昭和49年8月6日 広島大学学長 飯島宗一撰 元広島大学教授 井上政雄書	広島大学 原爆死没 者慰霊行 事委員会	1972年3月に発足した広島大学原爆死没者慰霊行事委員会(委員長:学長)は、その主要事業の一つとして追悼の碑を建立した。広島大学では、1974年以降、毎年8月6日に同碑の前で追悼式を行っている。同碑の内部には、広島大学及び前身校の原爆死没者名簿が納められており、関係者の申し出により毎年書き加えられている。なお、同碑の設計を担当した佐藤重夫氏(当時工学部教授)によると、その造形には「原爆の重大な犠牲となられた悲しみは推し測ることも出来ない重いことで、動かしえない現実、我々は本当に静かになご冥福を祈る気持ちでいっばいである。したがって静かにどっしりと安定した、無限の自然が造りあげた重い重い大きな石で、しかも自然の美しい形のものがどんな人工の碑よりもこの原爆碑に最もふさわしく、永遠に祈りの碑となるものと私は思った。裂き砕かれた鋭い大小の割石を下部に乱積にしたものは、世の矛盾、悲しみ、争いを連想して、碑石の底部に押しつぶして積むことにしたものである。」という意図が込められているとのことである。 ※見学する場合、正門で警備員に見学したい旨を連絡
千田04 国泰寺23	広島文理科大学・広島高等師範学校原爆死没者遺骨埋葬の地碑 1972年12月25日 中区東千田町一丁目1番89号(広島大学東千田キャンパス内、東千田共用施設C棟南)	広島文理科大学・広島高等師範学校原爆死没者遺骨埋葬の地	広島大学 原爆死没 者慰霊行 事委員会	1945年8月6日の夕方及び翌7日にかけて広島文理科大学・広島高等師範学校の構内や周辺から遺体8、9体及び遺骨10数体が発見された。遺体及び遺骨は学校関係者が氏名を確認し、遺体は構内において茶屋に付した。大半の遺骨は遺族に渡されたが、1945年末の段階でなお小量(鉄かぶと1杯足らず)が残った。そこで、これを鉄かぶとに納め広島文理科大学本館(旧広島大学理学部1号館)の裏に埋葬した。1970年に埋葬地にボイラー室が建設され、工事の際に鉄かぶとが発見されたものの遺骨は完全に土化していた。広島大学原爆死没者慰霊行事委員会が被爆時の実態調査を進める中で、こうした事情が判明したため、遺骨埋葬地付近に石碑を建立した。その後、広島大学の移転に伴い、同石碑は1996年に現在地へ移設された。 ※見学する場合、正門で警備員に見学したい旨を連絡

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
千田05 国泰寺24	千田国民学校原爆犠牲教師と学童追憶の碑 1976年8月 中区東千田町二丁目1番34号(千田小学校内、正門の車回り横の日本庭園内)	原爆犠牲教師と学童追憶の碑 1976.8 千田国民学校遺族会	千田国民学校遺族会	5日深夜に空襲警報が発令されたこともあって、千田国民学校(現在の千田小学校)では疎開していない残留児童の始業時刻はいつもより30分遅い9時だった。そのため、被爆時、十数人の児童しか登校していなかった。一方、高等科生徒(現在の中学1、2年生に相当)は雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開作業に出動中に被爆し、全滅したと思われる。碑の背面に、犠牲となった教師3人、学童41人の名前が刻まれている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-8623)で)
千田06 国泰寺25	広島電鉄株式会社慰霊碑 1977年7月 中区東千田町二丁目9番29号(広島電鉄株式会社千田車庫内、引き込み線のポイント前)	この碑は会社創立以来の殉職者と原爆により死没された当社役職員・家政女学校職員生徒・女子挺身隊員・動員学徒の方々のご冥福を祈念し建立したものである(背面)	広島電鉄株式会社	広島電鉄では、社員とともに電車・バスの運行を担っていた広島電鉄家政女学校(現在廃校)の生徒約30人を始め、動員学徒を含めて約190人が原爆の犠牲となった。これらの原爆死没者と会社創立以来の殉職者の霊を慰めるため、慰霊碑を建立した。なお、市内電車の車両は123両中108両が損壊するなど壊滅的な被害を受けたが、被爆当日の午後には復旧に取りかかり、8月9日には一部区間で運行を再開した。再び走り始めた電車の姿は人々を大いに勇気づけたと言われており、現在も、2両の被爆電車が営業運転を続けている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-242-3521)で)
千田07 国泰寺26	千田町一丁目町民慰霊碑(ふりかえりの塔) 1977年8月6日 中区千田町一丁目3番(鷹野橋交差点ロータリー内)	ふりかえりの塔 ピカドーン くずれた家々は たき火のように燃え拡がり はりの下敷きとなって あちらこちらで 助けを求める悲痛な叫び 迫り来る火の海の前に 人の力は あせれど弱い「逃げて 早く逃げて…」と叫ぶいという人の声もとだえた今 後髪を引かれ 振り返ってはころび 火の粉を浴びながら また 振り返る 思い残り あの時 あの日を 再び繰り返してはならない(台座)	広島市千田町一丁目原爆慰霊碑建設委員会	千田町一丁目の町民ら原爆犠牲者を慰霊するために建立された。
千田08 国泰寺27	広島赤十字病院慰霊碑 1959年11月 中区千田町二丁目5番64号(日本赤十字社広島県支部前庭)	死はこの市に住む人々をもその救護を使命とする人々をも同時に襲った。かくして残虐な無差別兵器はこの地点において赤十字が創設した博愛の施設にも打撃を与えたのであった。しかしこの事件は人間の良心を呼びさました。その後人類は一体となって戦争を放棄し正義と平和の支配する友情の世界を生み出さねばならないことを知った。赤十字はこの福祉の業にその熱情と誠意とを傾けるであろう。赤十字国際委員会々長 レオポルド・ボアシエ(横の石碑)	日本赤十字社	原爆により、広島赤十字病院関係者と患者の多くが犠牲となった。病院は外郭だけを残して破壊されたが、多くの被爆者が救護を求めて集まった。かろうじて生き残った医師・看護婦は、わずかな医療資材を用いて懸命に治療を続けた。碑は1959年、広島赤十字病院開院20周年記念行事の一つとして建立された。2013年、病院の建て替えに伴い現在地に移設された。
千田09 国泰寺28	修道中学校職員生徒慰霊碑 1946年8月 中区南千田西町8番1号(修道中学・高等学校内、本館北)	慰霊	修道学園	修道中学校では、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開作業中の1年生37人、2年生136人を始め、多くの犠牲者を出した。碑は、戦後、最も早く建てられたが、占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)に伴い、碑の裏に刻まれていた原爆の文字と建立年月日を削り取り、セメントを塗った。現在、犠牲者188人の名前を刻んだ銅板が背面にはめ込まれている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-8291)で)
千田10 国泰寺29	「歴史に生きる」碑 1993年10月16日 中区南千田西町8番1号(修道中学・高等学校内、本館北)	歴史に生きる 平成5年8月6日 東京芸術大学長 平山郁夫書(正面) 被爆建物 旧広島陸軍兵器支廠の外壁煉瓦 旧広島陸軍兵器支廠は、昭和19年9月から昭和20年8月15日まで旧制修道中学校生徒が学徒勤労令による動員で作業に従事した場所である。昭和20年8月6日 3年生を中心とした多数の生徒がここで被爆した。このたび旧広島陸軍兵器支廠倉庫の最後の1棟(現在広島市南区霞1丁目広島大学医学部構内)が取り壊されるにあたり、当時の動員生徒有志の賛金によって、その外壁煉瓦を本校で保存するに至った。(写真は旧広島陸軍兵器支廠倉庫煉瓦はその一部) 平成5年(1993年)10月16日 修道中学校 修道高等学校(正面の銅板) 旧広島市庁舎被爆石(台座正面) 贈 被爆当時修道中学校3年生有志(背面)	被爆当時 修道中学校3年生有志	修道中学校3年生約140人は、広島陸軍兵器補給廠(竣工時:広島陸軍兵器支廠。爆心地から2.8キロメートル)に動員作業中被爆し、3人が犠牲となった。碑銘を揮毫した平山氏も被爆した生徒の一人だった。1993年2月、旧陸軍兵器支廠の最後の倉庫が取り壊されたことに伴い、当時の3年生らは、思い出の多い被爆倉庫のれんがを保存し、被爆の証として平和の尊さを後世に伝えるため、記念碑建立を発意した。完成した記念碑には、被爆れんがのほか、旧広島市役所庁舎の被爆石なども組み込まれている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-241-8291)で)
本川01 国泰寺30	左官町周辺縁故者原爆精霊供養塔 1951年8月6日 中区本川町一丁目2番9号(善応寺境内)	為7回忌追善菩提	左官町居住者ならびに縁故者一同	当時、現在の十日市町一丁目、本川町一丁目辺りに左官町(爆心地から550メートル)があった。同町の原爆による被害は甚大で、家屋は全壊・全焼し、人的被害は即死者約91パーセントである。被災後戻った町民らが、犠牲者を慰霊するために寄付を募って塔を建立した。塔の左右に263人の犠牲者の名前が刻まれた名録碑がある。

原爆関係の慰霊碑等の概要(中区内)

令和7年7月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
本川02 国泰寺31	本川小学校原爆慰霊碑 1995年11月3日 中区本川町一丁目5番39号(本川小学校内、本川小学校平和資料館西)	あまねくとどけ 平和の祈り(正面) 被爆50周年記念として 本川地区原爆慰霊碑建立委員会之を建つ 平成7年11月3日(背面) 碑に寄せて 昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分相生橋上空五百数十米にて爆発した1発の原子爆弾は、瞬時に全市を滅亡させた。爆心に最も近いこの学校では児童教職員四百十余人全員爆死し、数千人もの地区民も熱線爆風の直撃を受け惨憺たる有様であった。廃墟となったこの学校は臨時救護所に当てられたが、焼けただれ水を求めてさまよう人々を手当する術も無く、校庭はたちまち死骸の山となり巴むなくこの地で荼毘に付された。当時を偲べば追悼の念を禁じ得ない。この事実を後世に伝え核兵器の廃絶と永久の平和を希って、地区と学校が一体となりこの平和資料館の傍らに慰霊の碑を建立する。平成7年11月3日 本川地区原爆慰霊碑建立委員会(横の石碑)	本川地区 原爆慰霊 碑建立委 員会	本川国民学校(現在の本川小学校)は爆心地に最も近い場所にあった学校で、その距離410メートル。約400人の児童、10人の教職員が犠牲となった。校舎は外郭を残して全焼したが、被爆後も補修・改修を繰り返して使用された。校舎建て替えに伴い、一部が保存され、1988年、平和資料館として整備された。その後、本川小学校児童らから、碑建設を望む声が高まり、本川地区社会福祉協議会など8団体で構成する碑建立推進委員会が結成され、碑が建立された。説明板がはめ込まれた横の石碑の台座は、本川小学校校庭の被爆石が使われている。 ※学校休校日は見学不可。見学時間は8時30分～17時。個人で見学する場合、正門インターフォンで見学したい旨を連絡。団体で見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先をFAX(082-234-0910)で)
本川03 国泰寺32	本川学区町民慰霊碑 1957年8月6日 中区本川町三丁目5番(空鞆橋西詰南、本川河岸緑地)	為原爆死没者(背面) この地は、かつて空鞆町防空壕があり、昭和20年8月6日原爆投下された際、本川地区一帯の被爆死者数千の遺体を本川小学校に集め荼毘に付し、その遺骨を埋葬した場所であります。その後遺骨は平和公園内の供養塔に移されましたが、永遠にこの聖地を記念し、その霊を慰めるために、地区有志一同相寄り昭和32年8月6日この慰霊碑を建立したのであります。平成6年4月 本川地区町民有志・本川町二丁目三丁目町内会・十日市町二丁目1区2区3区町内会(横の説明板)	本川学区 内有志	本川地区一帯の原爆犠牲者数千の遺体が本川国民学校(現在の本川小学校)に集められ、焼却された遺骨は、この地にあった防空壕内に埋められた。その後、遺骨は平和記念公園内の原爆供養塔に納められた。永くこの場所を記念して、犠牲者を慰霊するため、碑が建立された。
本川04 国泰寺33	広島市立中学校職員生徒慰霊碑 1948年8月6日 (移設された可能性があり、移設場所は確認中)	広島市立中学校は昭和17年天満小学校の一部を仮校舎として創立され、翌年中広町の新校舎に移転する。戦局の激化に伴い、工場に、農村にあるいは建物疎開作業等に動員され、厳しく鍛えぬかれた生徒は市中精神に徹し、健気に銃後を護る。昭和20年8月6日原爆による広島壊滅の日、小網町で建物疎開作業中の全員及び登校していた者やその他370余名の職員生徒が劫火の犠牲となる。このたび三光寺にあった碑を多くの生徒が斃れたこの地に移し、その霊を慰めるとともに、広島市立中学校の名を茲に留めんとするものである。昭和50年8月6日 広島市立中学校遺族会・広島市立中学校同窓会	広島市立 中学校遺 族会・同窓 会	(確認中)
本川05 国泰寺34	西地方・西新町町民慰霊碑 1947年8月15日 中区土橋町2番4号(浄国寺境内墓地)	—	浄国寺	当時、現在の土橋町辺りに西地方町(爆心地から700メートル)、西新町(爆心地から800メートル)があった。地区の住民やこの地域で原爆の犠牲となった人々を慰霊するため、当時の浄国寺住職の母親が木碑を建立した。現在、木碑は朽ちて、代わりに無銘の石が置かれている。隣には、原爆により笠の部分が破損した宝塔が建っている。
本川06 国泰寺35	広島県防空機動隊員慰霊碑 1947年8月15日 中区土橋町2番4号(浄国寺境内墓地)	(かつては、「防空機動隊員慰霊碑」と記されていたが、現在判読不能)	岡野俊二郎氏、生存友人有志	原爆や戦争の犠牲になった広島県防空機動隊員を慰霊するため、建立された。なお、この碑と同様に広島県防空機動隊員の犠牲者を慰霊する碑として、「広島県防空機動隊戦病没者慰霊碑」(西区)がある。
中島01 吉島01	日本生命保険職員殉職碑 1949年 中区中島町3番25号(ニッセイ平和公園ビル北西角)	昭和20年8月6日殉職	日本生命 広島支社 関係者一同	当時、日本生命広島支店は広島金融街として発展する大手町二丁目(爆心地から180メートル)にあった。原爆で建物は壊滅し、日本生命全体で職員28人が犠牲となった。1948年、同地に社屋を再建した後、犠牲者を慰霊するため、碑を建立した。その後、社屋の移転とともに碑も移設され、2006年、現在地に移設された。碑の背面に、犠牲者28人の名前が刻まれている。
中島02 吉島02	県立広島工業学校職員生徒慰霊碑 1987年3月 中区中島町10番(藤和公園前コープ西、本川河岸緑地)	原爆遭難の碑	県工同窓会	広島県立広島工業学校の生徒210人は、4人の教師の引率の下、建物疎開作業のため、中島新町(現在の中島町。爆心地から600メートル)に出動中被爆し、全滅した。創立90周年記念事業の一つとして、214人が犠牲となった場所に慰霊碑が建立された。
中島03 吉島03	広島県職員原爆犠牲者慰霊碑 1958年8月6日 中区加古町17番(アステールプラザ南西、本川河岸緑地)	昭和20年8月6日投下された原子爆弾は広島県庁および出先機関職員のうち800有余の生命を一挙に奪い去った 祖国のために一身の安危を顧みずひたすらに公務に精励していた人々のこの尊い犠牲はまことに痛惜きわまりない この附近は当時の殉難者が最も多く眠るところである このゆかりの地を選んで碑を建て身をもって平和の礎となった人々の霊をまつ 昭和33年8月6日 広島県知事 大原博夫(背面)	広島県	碑が建立されている辺りは、当時、広島県庁(爆心地から850メートル)や広島県病院があった。原爆により木造の広島県庁舎は瞬時に倒壊し、全焼した。職員の多くは即死か倒壊物の下敷きとなったまま焼死した。碑の横に犠牲者1,134人の名前が刻まれた名録碑がある。
中島04 吉島04	広島刑務所鎮魂の碑 1995年12月15日 中区吉島町13番の114(広島刑務所内)	鎮魂 法務大臣 宮沢弘	広島刑務所職員一同、矯正協会、広島県教諭師会、広島県教諭事業後援会	爆心地から約2キロメートルの位置にあった広島刑務所は、外堀に守られていたものの、建築物はほぼ全壊した。即死・行方不明者は、職員8人、被収容者15人であるが、その後原爆症により犠牲になった方、職員の家族、そして救護活動にかかわり二次被爆された方々など多くの死傷者を出した。被爆50周年を迎えるに当たり、原爆犠牲者の霊を慰め、永久に記録するため、碑建立の声が高まり、1995年、碑が完成した。 ※現在、庁舎改築中で、見学不可

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
中島05 吉島05	原爆犠牲新聞労働者の碑(不戦の碑) 1985年8月6日 中区加古町3番(広島市文化交流会館北西、本川河岸緑地)	不戦	中国新聞労働組合	職場単位の国民義勇隊として、当時の広島県庁の建物疎開作業に当たっていた新聞労働者は建立地あたりで被爆した。碑は、「ピース」「プレス」の頭文字「P」を抽象化したデザインで、2度と戦争のためにペンを、カメラを取らない、輪転機を回さないとの誓いと、犠牲者への深い追悼の思いが込められている。碑には犠牲者132人の名前が刻まれている。
吉島東01 吉島06	原爆死没ろう者を偲ぶ碑 2003年8月3日 中区吉島東二丁目10番33号(広島県立広島南特別支援学校内、グラウンド南東)	鎮魂(正面) 平成15年(2003)8月 広島県立広島ろう学校同窓会建之(背面)	広島県立広島ろう学校同窓会	広島県聾学校は、爆心地から2.7キロメートルに位置し、原爆で16人が犠牲となった。碑は「原爆死没ろう者を偲ぶ会」が中心となり建立した。同校は2007年、広島県立広島南特別支援学校に校名変更した。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-244-0421)で)
吉島東02 吉島06	国有林野関係職員原爆慰霊碑 1976年8月6日 中区吉島東三丁目2番51号(広島森林管理署内、庁舎西)	原爆落つ ああここに 悲しき犠牲者あり 冥福を祈りて 浄財を集め この碑を立つ(背面)	国有林野関係職員原爆慰霊碑建設委員会	1976年、国有林野関係職員の犠牲者を慰霊するため、中区基町にあった広島営林署構内に碑が建立された。1989年、庁舎の移転に伴い現在地に移設された。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-247-2201)で)
広瀬01 (西区) 中広01	中国配電職員弔魂塔 1948年8月6日 中区寺町1番19号(本願寺広島別院境内、正門入って右)	昭和20年8月6日ノ戦災ニ因リ本社社員ノ前後非命ニ斃レシ者278名是レ皆国家再造ノ犠牲本社進展ノ礎石ト謂フ可シ茲ニ3周年ニ当リ僚旧均シク哀ヲ新ニシ感ヲ増ス仍テ此ノ塔ヲ建テテ聊々追弔ノ情ヲ表ハシ亦以テ永ク其ノ幽魂ヲ慰メント欲ス。昭和23年8月6日 中国配電株式会社取締役社長 島田兵蔵撰並書(背面)	中国配電株式会社	爆心地から680メートルに位置していた中国配電株式会社(現在の中国電力株式会社)本店の犠牲者163人を始め、電業局、支店、被爆当時出張で広島にいて犠牲となった社員全278人を慰霊するために建立された。
広瀬02 (西区) 中広02	特設警備隊広島西部第二部隊慰霊碑 1982年5月16日 中区広瀬北町9番(中広大橋東詰北、天満川河岸緑地)	特設警備隊 広島西部第二部隊原爆戦死合祀者名 昭和20年8月6日(背面)	慰霊碑建立委員会	碑は、当時、特設警備隊広島西部第二部隊が駐屯していた広瀬国民学校(現在の広瀬小学校)跡地(爆心地から1.1キロメートル)に建立されている。同部隊は、陸軍が太平洋戦争末期の本土決戦に備えて編成した臨時の部隊で、原爆により多くの隊員が犠牲になった。碑背面には、犠牲者に加え、数人の生存隊員と碑建立世話役94人の名前が刻まれている。
広瀬03 (西区) 中広03	広瀬学区表忠碑 1956年6月24日 中区広瀬町1番19号(広瀬神社境内)	大東亜戦争に於ける 戦死者 並 原爆死没者 847柱合祀す 昭和31年6月24日 再建立 広瀬学区郷友会 広瀬地区社会福祉協議会	広瀬学区郷友会、広瀬地区社会福祉協議会	日清・日露戦争の戦死者を慰霊するために1911年に建立された碑を、1956年、広瀬学区の日中戦争から太平洋戦争までの戦死者と原爆犠牲者847人を合祀して再建立された。
広瀬04 (西区) 中広04	広瀬学区原爆死没者慰霊碑 2004年8月3日 中区広瀬町2番8号(広瀬小学校内、南校舎南)	昭和20年8月6日午前8時15分人類史上初めての原子爆弾が 広島に投下された 爆心地に近い当学区内も 熱線爆風の直撃で一瞬の内に ほとんどの家屋が倒壊し延焼した 下敷き状態から救出を求めながら焼け死んだ人も多く学区内は地獄と化し 推定死亡者は 五千人を越えた(原爆被爆者動態調査誌参照) 広瀬国民学校児童の大半は縁故疎開や 集団疎開をしていたが当日登校していた教師7人児童37人 行方不明児童100人の尊い命が失われ犠牲者となった ここに 原爆で亡くなられた多くの方々を 慰霊するとともに 被爆の事実を風化させぬ為 また 不戦の誓いと世界恒久平和の祈念の場として住民の意志を結集し慰霊碑を建立するものである 平成16年8月3日 広瀬学区原爆死没者慰霊碑建立委員会 被爆当時学校区町名 寺町 広瀬北町一丁目 二丁目 三丁目 広瀬元町 錦町 西九軒町 横堀町 北榎町 新市町 西引御堂町 中広町 中広本町 中広北町 中広町一丁目 上天満北町(背面)	広瀬学区原爆死没者慰霊碑建立委員会	地元住民による寄付などにより碑が建立された。広瀬学区は比較的爆心地から近距離に位置し、5千人を超える犠牲者を出した。また、当時、広瀬国民学校(現在の広瀬小学校)は爆心地から1.1キロメートルの広瀬北町にあり、児童百数十人が犠牲となった。1950年、同校は現在地に移転した。 ※学校休校日は見学不可。見学時間は8時30分～17時。正門インターフォンで見学したい旨を連絡
神崎01 江波01	市立第二高等学校職員生徒慰霊碑 1977年7月 中区河原町1番(西平和大橋西詰、平和大通り緑地帯)	慰霊碑 広島市立第二高等学校	第二高等学校同窓会、二高会(旧職員)	高等学校は、現在の中学1、2年生が通う学校。木挽町(現在の中島町。爆心地から550メートル)で建物疎開作業をしていた広島市立第二高等学校(当時の名称は、第二国民学校。現在の観音中学校)の生徒・教職員全員約250人が犠牲になった。
神崎02 江波02	神崎学区原爆慰霊碑 1995年8月3日 中区河原町15番(河原町公園内)	昭和20年8月6日、人類史上はじめて投下された原子爆弾により、神崎学区も未曾有の被害を受けた。本年被爆50周年を迎えるに当たり、原爆で亡くなられた多くの方々を慰霊するとともに世界の恒久平和を祈念して、地域住民の総意によりここに慰霊碑を建立するものである。 平成7年8月3日 神崎学区原爆慰霊碑建立委員会	神崎学区原爆慰霊碑建立委員会	神崎国民学校(現在の神崎小学校。爆心地から1.2キロメートル)の教職員・児童147人を始め、神崎学区は比較的爆心地から近距離に位置することから、多くの犠牲者を出した。同校の校庭(現在の国道2号付近)では連日、遺体の焼却が続いたという。それからまもなく、永光寺(舟入本町)の檀家総代が焼却地付近に高さ3メートルの木碑を建てた。その後、国道2号の整備事業に伴い、木碑は同寺に移設されたが、腐食が進み、1960年代に焼却された。50回忌を機に同寺の住職が地区住民に慰霊碑再建を呼びかけ、これに応じて、町内会など21団体の長らで碑建立委員会が組織され、募金運動を経て碑が建立された。碑の台座の一部には、神崎小学校に残っていた被爆石4個が使われている。

地区 小学校区 中学校区	名称(注1) 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注2)	建立者	建立経緯・来歴等
神崎03 江波03	小網町原爆慰霊碑(女子挺身隊・義勇隊・動員学徒慰霊碑) 1976年8月 中区舟入町3番(平和大通り緑地帯、広島三菱自動車販売㈱中央店前)	原爆慰霊碑	小網町町内会	建物疎開作業の片付けのため、多くの中学校生徒、職域・地域義勇隊が小網町(爆心地から900メートル)で動員中に被爆し、多くの犠牲者を出した。それら犠牲者を、三光寺(小網町)住職が弔った。1948年、町内の人々は犠牲者950人を供養するため同寺に木標を建てた。1976年、遺族により朽ちた木標から石碑に建て替えられ、1995年ごろ、現在地に移設された。
神崎04 江波04	原爆地蔵尊 1960年 中区舟入幸町14番(舟入公園内)	この地蔵尊は、沢山の被爆者の方々が、この付近で亡くなられその冥福を祈念してこの地に建立されました。(以下略)(説明板)	三上早上氏	被爆直後、現在地周辺で多数の原爆犠牲者を茶毘に付した。1954年、現在公園となっている場所に白鳩園という保育園が開設され、1960年、原爆死没者の慰霊と園児の無事故を祈って当時の園長が地蔵尊を建立した。白鳩園は1971年、神崎保育園と合併して廃園となり、跡地が公園に整備され、地蔵尊はそのまま残された。1980年、北隣の舟入むつみ園の入所者・職員によりお堂や説明板などが整備された。毎年10月24日、同園と町内会の共催により「原爆地蔵祭」が行われている。
舟入01 江波05	県立広島商業学校職員生徒慰霊碑 1961年9月30日 中区舟入南六丁目7番11号(広島県立広島商業高等学校内、正門入って右)	祖国の柱に捧ぐ 第11回生 大木倬夫 戦ひのいけにゑとして散りし花 わかき友らは今も生く この門に生く 仰ぎみん 御霊やすかれ 合掌禮拜	原爆慰霊碑建立委員会(遺族会、同窓会)	広島県立広島商業学校では、2年3組が、動員先の工場から、建物疎開で土橋付近(爆心地から800メートル)を通りかかっていたとき被爆し、全滅した。また、4年1組は、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開の作業にあたろうとしているときに被爆し、多くの死傷者を出した。同校では、職員3人、1年生18人、2年生60人、3年生21人、4年生35人の計137人が犠牲となった。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-231-9315)で)
江波01 江波06	江波地区戦死者戦病死者並原爆死者之霊・塔婆 不詳 中区江波東二丁目6番13号(丸子山不動院境内)	江波地区戦死者戦病死者並原爆死者之霊	不詳	江波地区は比較的爆心地から離れていることもあって、地区内にいた人で即死した人はいなかったが、他の地区にいて犠牲となった人はいいた。
江波02 江波07	母子愛の碑 1995年8月7日 中区江波二本松二丁目12番(江波山公園内展望広場)	碑に寄せて 昭和20年8月6日午前8時15分。1発の原子爆弾は相生橋上空5百数十米において炸裂した。一瞬にして街は阿鼻叫喚の巷と化した。わが江波町の人的物的被害は中心部に比して軽かったが、時を経ずして、多くの負傷者が見るも無残な姿で殺到し、その数は1万人を突破した。一方、炎熱に耐えかねて本川に入水した無数の死傷者が折りからの下げ潮にのって江波町の波打ち際に漂着して来た。その日、江波町は夏祭りであったが暗転して惨劇の街と化していった。肉親探し、救援、看護、更には火葬等の諸活動は町内会、警防団、婦人会等、役割を分担しながら秋までも続いた。あれから時は流れて半世紀、今日に至る江波町有縁の犠牲者は推定1万数千名にも及んでいる。襟を正して、これらすべての犠牲者の魂安かれと祈ることは現代に生きる者の責務であろう。更には人類の滅亡につながる核兵器の廃絶を願い、不戦の決意も新たに、ひいては世界恒久平和の実現を誠実に希求するその証として、心ある人々の浄財をもってこの碑を建立するに至った。碑面は「世界平和」を礎に、不変の真理である「おやこの愛」と「生命の尊さ」を訴えた。作者は中国広州美術学院教授曹崇恩先生であり、日中友好の懸け橋ともなればとの想いも含まれている。願わくばこの心の子々孫々に至るまで受け継ぎ護り給わんことを。平成7年8月7日 除幕 江波地区社会福祉協議会	江波地区社会福祉協議会	江波地区では、市内中心部に動員されて犠牲となった学徒や義勇隊に加え、中心部から逃れてきたり、川に流されたりした犠牲者1万人以上が茶毘に付されたと言われる。そうした犠牲者を慰霊するため、1993年、江波地区社会福祉協議会により木碑が建立され、慰霊祭が行われた。その後、被爆50周年前に、江波でこうした事実があったことの風化を防ぐためにも本格的な碑を建てようとの声が高まり、木碑のあった場所に像が建立された。なお、犠牲となった江波地区町民を慰霊する碑として、「江波地区戦没者慰霊碑」(中区)がある。
江波03 江波08	江波地区戦没者慰霊碑 1983年5月 中区江波南一丁目11番12号(海宝寺境内、本堂前)	戦没者慰霊碑	江波遺族会	江波地区の日中戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(319人。うち原爆犠牲者は動員学徒101人、軍人41人、国民義勇隊38人、軍属6人、挺身隊4人の190人)を慰霊するために建立。背面に犠牲者の名前が刻まれている。毎年8月6日、碑の前で慰霊行事が、また、8月12日には遺族会による追弔法要が、それぞれ行われている。

(注1)名称は建立者が定めたものになっていますので、敬称が付いていないものもあります。

(注2)原則、漢数字は算用数字で表記しています。